

練馬区在宅介護実態調査 報告書 (速報)

平成 29 年 (2017 年) 4 月

練 馬 区

目 次

調査概要	1
調査結果の詳細（単純集計結果）	4
1 基本調査項目（A票）	4
（1）世帯類型	4
（2）家族等による介護の頻度	4
（3）主な介護者の年齢	5
（4）介護のための離職の有無	5
（5）施設等検討の状況	6
2 主な介護者に関する調査項目（B票）	7
（1）主な介護者の勤務形態	7
（2）主な介護者の働き方の調整状況	7
（3）主な介護者の就労継続の可否に係る意識	8
（4）今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護	8
3 要介護認定データ	9
（1）年齢	9
（2）性別	9
（3）二次判定結果（要介護度）	10
（4）サービス利用の組み合わせ	10
（5）訪問系サービスの合計利用回数	11
（6）通所系サービスの合計利用回数	11
（7）短期系サービスの合計利用回数	12
（8）障害高齢者の日常生活自立度	12
（9）認知症高齢者の日常生活自立度	13
調査結果の詳細（クロス集計結果）	14
1 サービス利用状況等と介護者が不安に感じる介護	14
（1）基礎集計	14
（2）要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化	15
（3）要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化	17
（4）「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係	18
（5）「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係	19
（6）「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」の関係	21
（7）「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係	24
2 主な介護者の就労状況と就労継続見込み	30
（1）基本集計	30
（2）就労状況別の就労継続見込み	32
（3）「介護保険サービスの利用状況」・「主な介護者が不安に感じる介護」と「就労継続見込み」の関係	34
（4）「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係	35
（5）就労状況別の施設等検討の状況	36
（6）就労状況別の、介護のための働き方の調整	37
3 世帯類型別のサービス利用や施設等の検討状況	39
（1）基礎集計	39
（2）「要介護度別・世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」	40
（3）「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」	42
（4）「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」	44

調査概要

1 調査の目的

「介護離職をなくしていくためにはどのようなサービスが必要か」といった観点から、「高齢者等の適切な在宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続」との実現に向けた介護サービスの在り方を検討するための基礎資料を得る。

調査種別	調査の目的
A票	対象者の世帯類型、介護の頻度、介護のための離職の有無、施設等への入所・入居の検討状況等を把握する。
B票	主な介護者の勤務形態、働き方の調整の状況、就労継続の可否に係る意識、在宅生活の継続に向けて不安に感じる介護等を把握する。

調査票については、平成 28 年 10 月 3 日付け事務連絡「『介護保険事業計画策定に向けた各種調査等に関する説明会』資料の掲載について(厚生労働省老健局介護保険計画課)」で案内されたものである。

2 調査方法

介護保険認定調査実施時に、介護保険認定調査員が、調査対象者や調査に立ち会っている家族などに、聞き取り調査を行う。または、調査対象者および介護者などが所定の調査用紙に記入する。

3 調査対象

区内で在宅生活をしている、要介護・要支援認定の区分変更および更新申請に伴う認定調査対象者とその家族で、「在宅介護実態調査」へのご協力の了解を得られた方

4 調査期間

平成 28 年 10 月 13 日～平成 29 年 3 月 14 日

5 回収状況

調査件数	有効件数	左記の内、要介護認定された件数	要介護認定結果とのクロス集計数
493	493	487	487

6 報告書を利用するにあたって

図・表中のnとは、基数となる実数のことである。

回答はnを100%として百分率で算出してある。小数点以下第2位を四捨五入しているため、百分率の合計が全体を示す数値と一致しないことがある。

複数回答ができる質問では、回答比率の合計が100%を超える。

報告書作成にあたり「厚生労働省老健局介護保険計画課 在宅介護実態調査集計分析ソフト 2010版」を用いてデータ集計・分析を行った。

サービスの利用回数・組み合わせ等に着眼した集計・分析に係る用語の定義は以下のとおりである。

< サービスの利用の分析に用いた用語の定義 >

用語		定義
未利用		・「住宅改修」、「福祉用具貸与・購入」のみを利用している方については、「未利用」として集計している。
訪問系		・（介護予防）訪問介護、（介護予防）訪問入浴介護、（介護予防）訪問看護、（介護予防）訪問リハビリテーション、（介護予防）居宅療養管理指導、夜間対応型訪問介護を「訪問系」として集計している。
通所系		・（介護予防）通所介護、（介護予防）通所リハビリテーション、（介護予防）認知症対応型通所介護を「通所系」として集計している。
短期系		・（介護予防）短期入所生活介護、（介護予防）短期入所療養介護を「短期系」として集計している。
その他	小規模多機能	・（介護予防）小規模多機能型居宅介護を「小規模多機能」として集計している。
	看護多機能	・看護小規模多機能型居宅介護を「看護多機能」として集計している。
	定期巡回	・定期巡回・随時対応型訪問介護看護を「定期巡回」として集計している。

< サービス利用の組み合わせの分析に用いた用語の定義 >

用語	定義
未利用	・上表に同じ
訪問系のみ	・上表の「訪問系」もしくは「定期巡回」のみの利用を集計している。
訪問系を含む組み合わせ	・上表の「訪問系（もしくは定期巡回）」+「通所系」、「訪問系（もしくは定期巡回）」+「短期系」、「訪問系（もしくは定期巡回）」+「通所系」+「短期系」、「小規模多機能」、「看護多機能」の利用を集計している。
通所系・短期系のみ	・上表の「通所系」、「短期系」、「通所系」+「短期系」の利用を集計している。

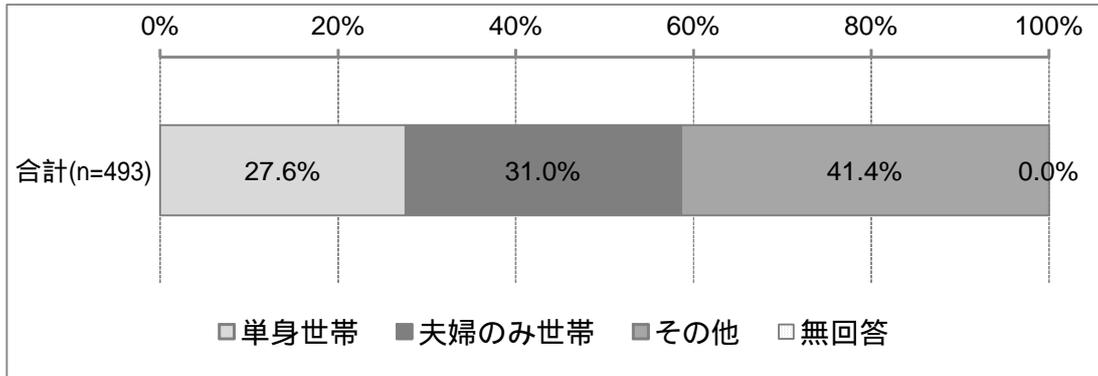
調査結果の詳細（単純集計結果）

1 基本調査項目（A票）

(1) 世帯類型

「単身世帯」27.6%、「夫婦のみ世帯」31.0%、「その他」41.4%であった。

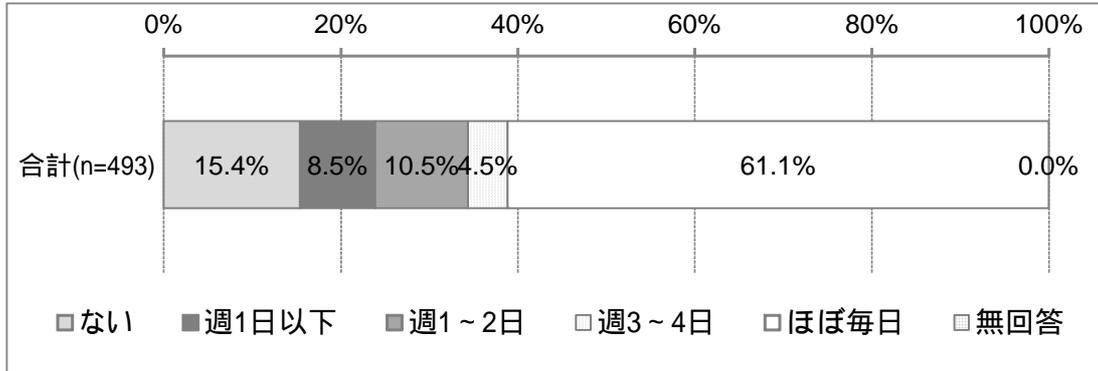
図表 1-1 世帯類型（単数回答）



(2) 家族等による介護の頻度

「ほぼ毎日」が最も高く61.1%、次いで「週1～2回」が10.5%であった。一方、「ない」と回答した割合は15.4%であった。

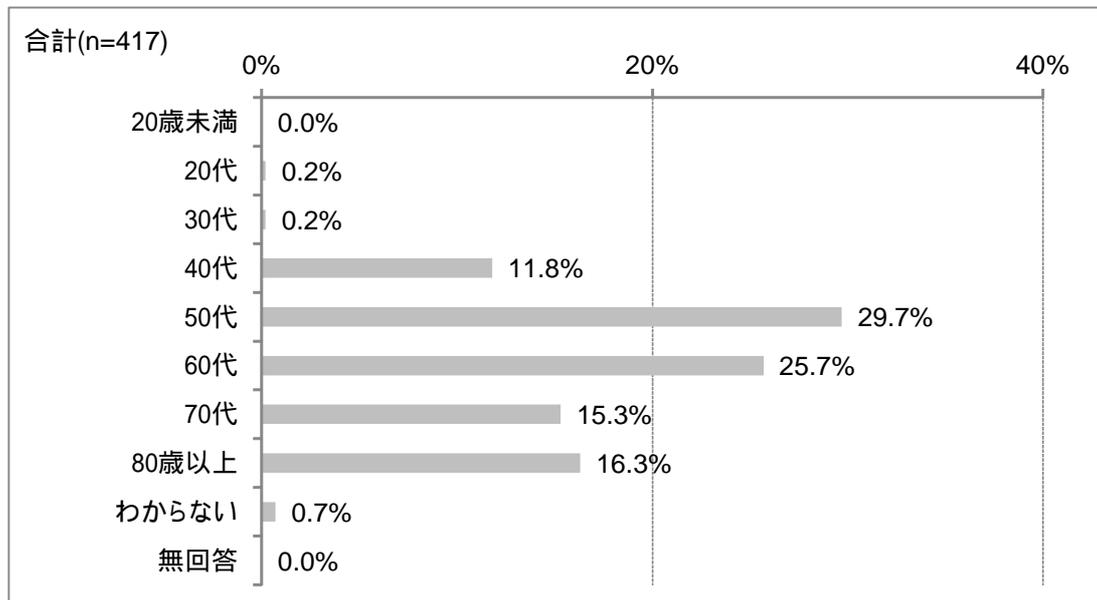
図表 1-2 家族等による介護の頻度（単数回答）



(3) 主な介護者の年齢

「50代」と「60代」を合わせると55.4%で半数以上を占めていた。70代以上も31.6%と約3割を占めていた。

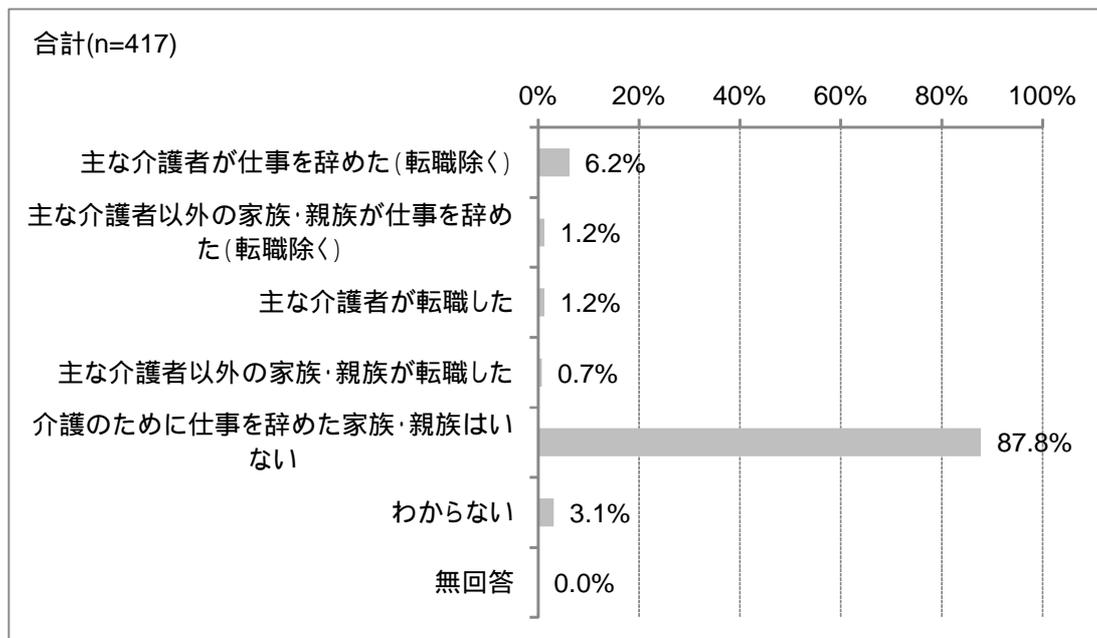
図表 1-3 主な介護者の年齢（単数回答）



(4) 介護のための離職の有無

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が87.8%と最も多かった。一方、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」割合は6.2%であった。

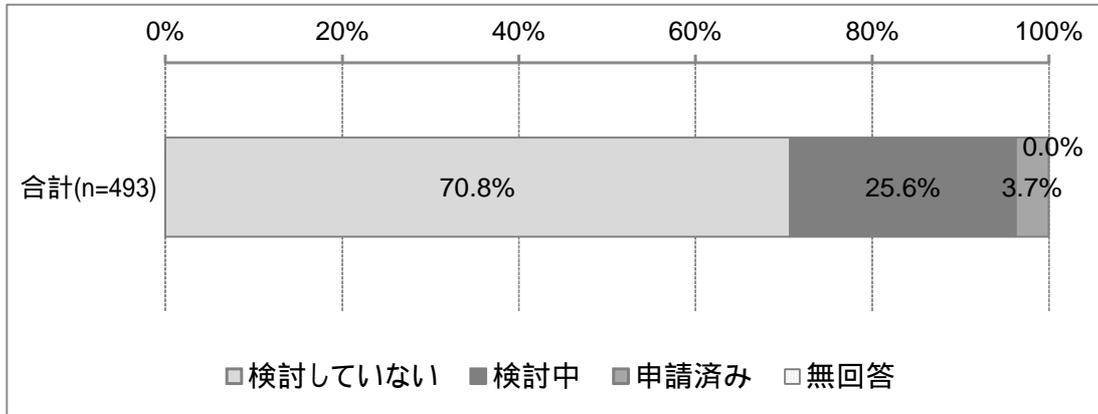
図表 1-4 介護のための離職の有無（複数回答）



(5) 施設等検討の状況

「検討していない」が最も多く70.8%であった。一方、「検討中」と「申請済み」を合わせると3割弱であった。

図表 1-5 施設等検討の状況（単数回答）

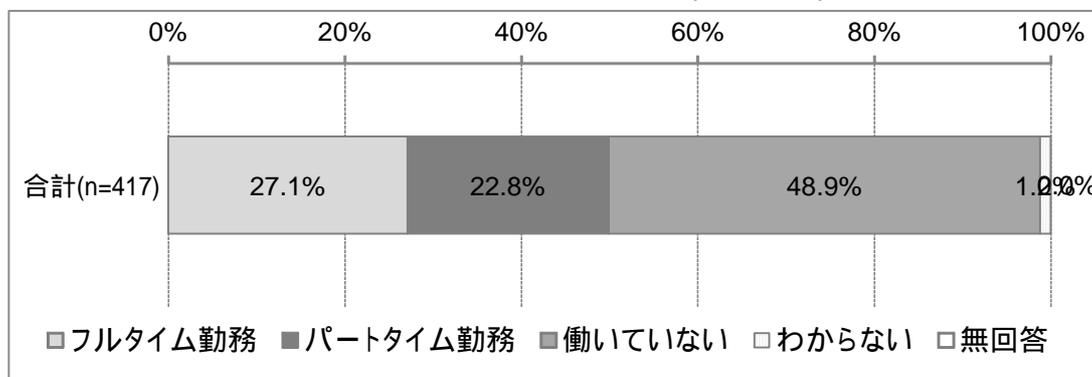


2 主な介護者に関する調査項目（B票）

（1）主な介護者の勤務形態

全体の約半数は働いており、「フルタイム勤務」は27.1%、「パートタイム勤務」は22.8%であった。

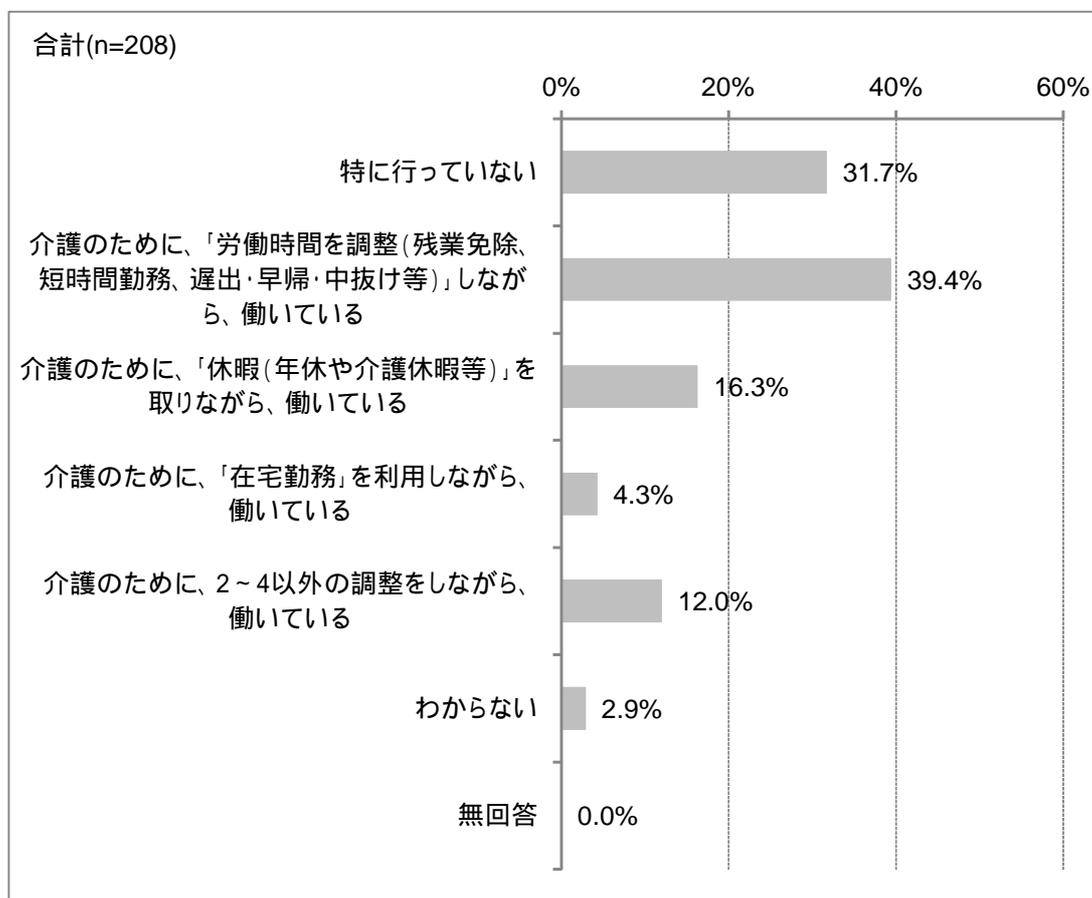
図表 2-1 主な介護者の勤務形態（単数回答）



（2）主な介護者の働き方の調整状況

「介護のために、『労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）』しながら働いている」割合が39.4%と最も高かったが、「特に行っていない」と回答した割合も31.7%あった。

図表 2-2 主な介護者の働き方の調整状況（複数回答）

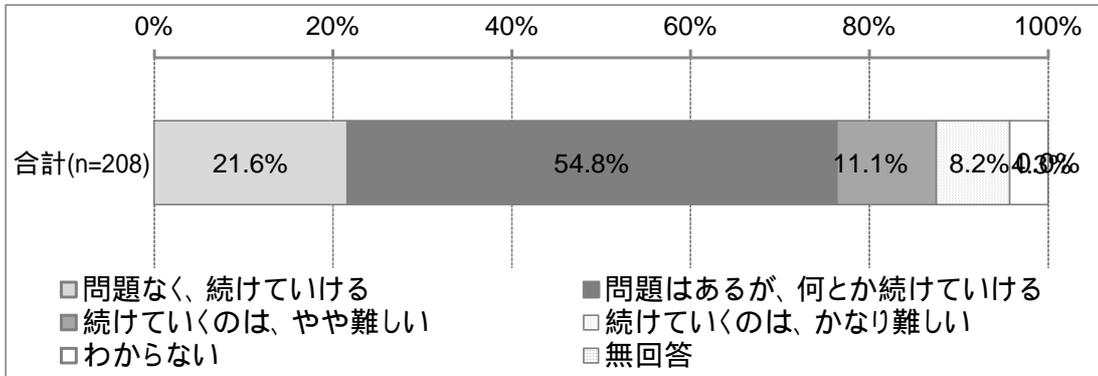


(3) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

「問題はあるが、何とか続けていける」が54.8%で最も多かった。

「問題はあるが、何とか続けていける」「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのはかなり難しい」の合計は74.1%で、主な介護者が働く上で何らかの問題を感じているのは7割を超えた。

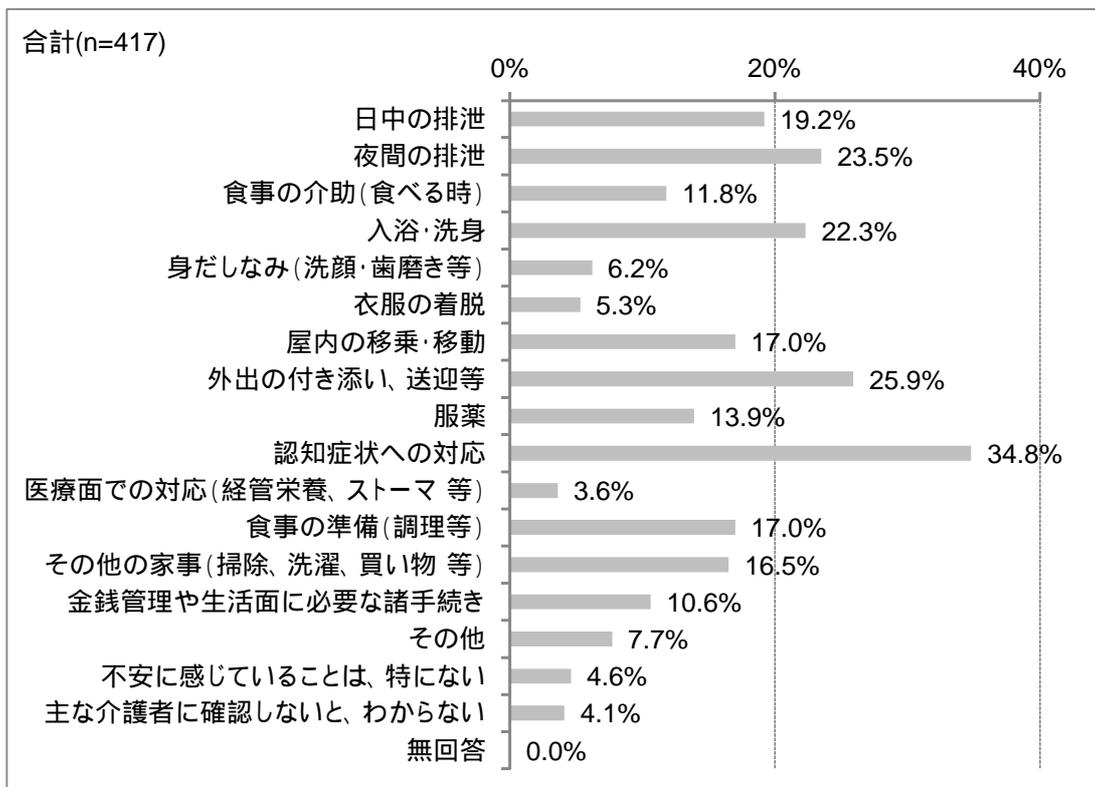
図表 2-3 主な介護者の就労継続の可否に係る意識（単数回答）



(4) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安を感じる介護

「認知症状への対応」が34.8%と最も多く、「外出の付き添い、送迎等」が25.9%、「夜間の排泄」が23.5%と続いた。

図表 2-4 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安を感じる介護（複数回答）

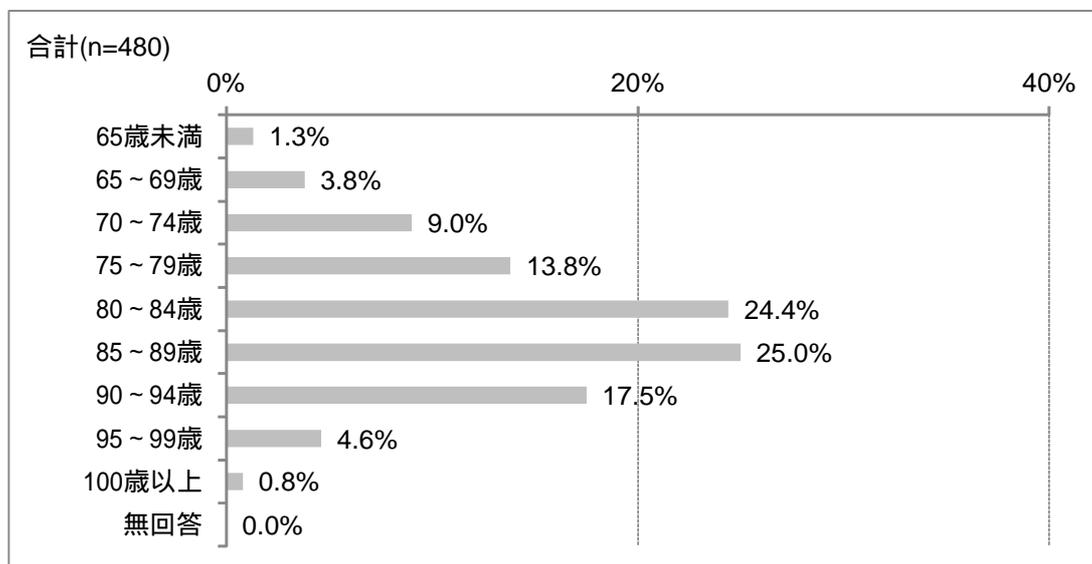


3 要介護認定データ

(1) 年齢

調査対象者は、75歳以上の後期高齢者が86.1%で、そのなかでも90歳以上が2割以上を占めた。「65歳未満」は1.3%であった。

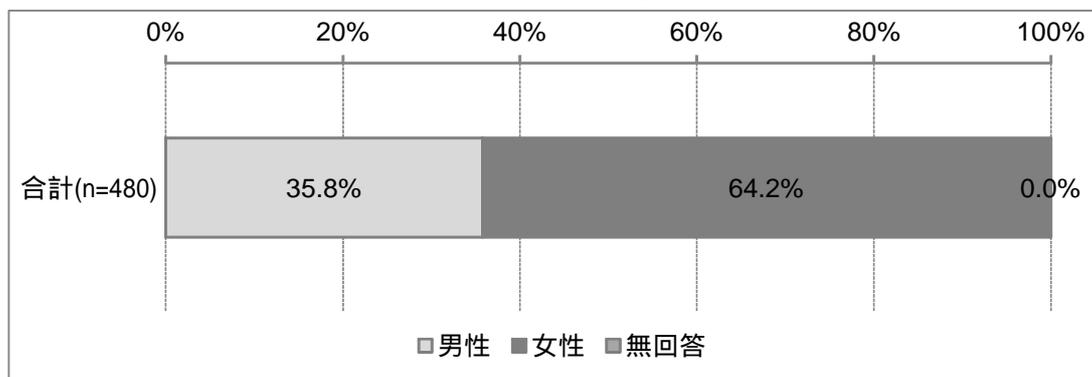
図表 3-1 年齢



(2) 性別

「男性」35.8%、「女性」64.2%であった。

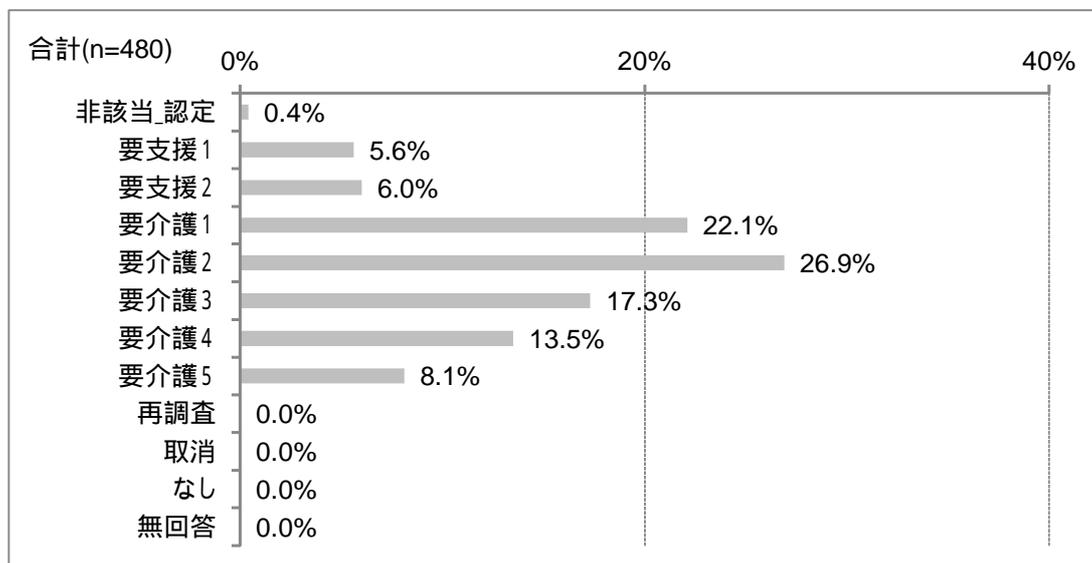
図表 3-2 性別



(3) 二次判定結果（要介護度）

「要介護2」が26.9%、「要介護1」が22.1%であった。「要支援1, 2」は合わせて11.6%、「要介護3以上」は38.9%と約4割を占めた。

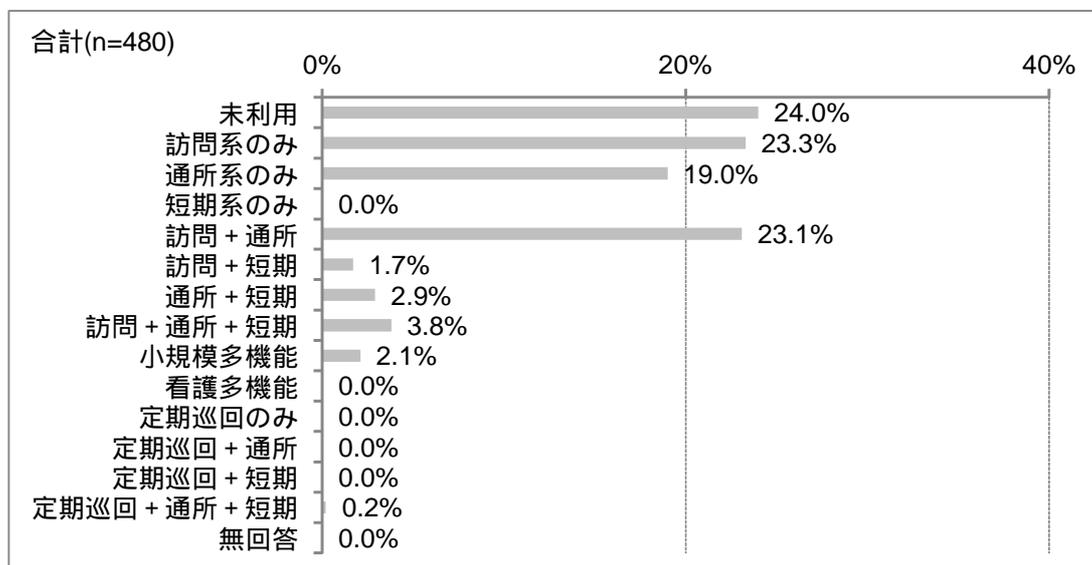
図表 3-3 二次判定結果（要介護度）



(4) サービス利用の組み合わせ

「未利用」が24.0%と最も多く「訪問系のみ」利用が23.3%、「訪問+通所」が23.1%、「通所系のみ」が19.0%と続いた。

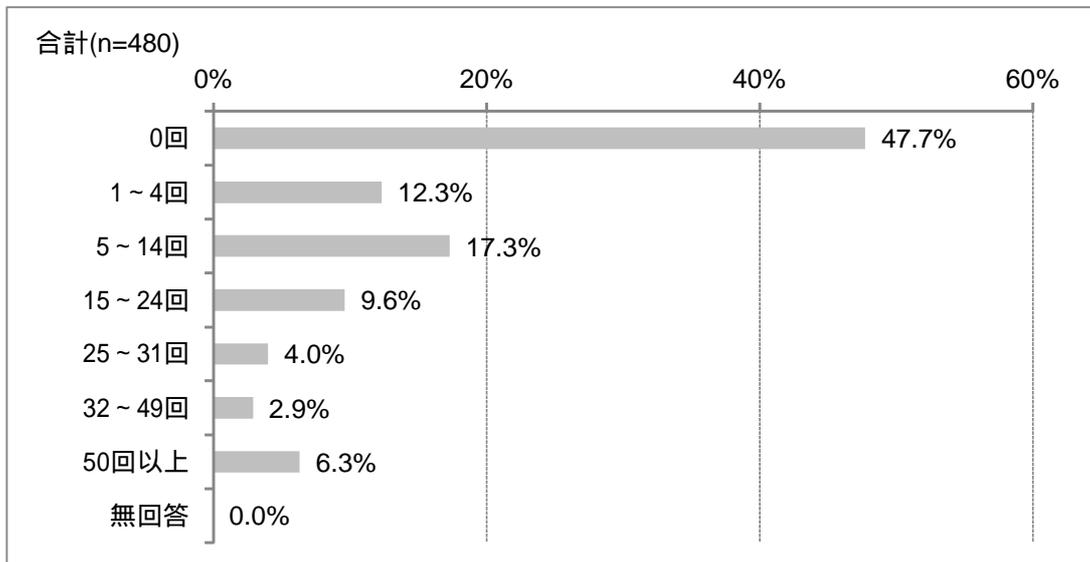
図表 3-4 サービス利用の組み合わせ



(5) 訪問系サービスの合計利用回数

「0回」が47.7%と約半数を占め、「5～14回」が17.3%、「1～4回」が12.3%と続いた。一方「50回以上」利用も6.3%あった。

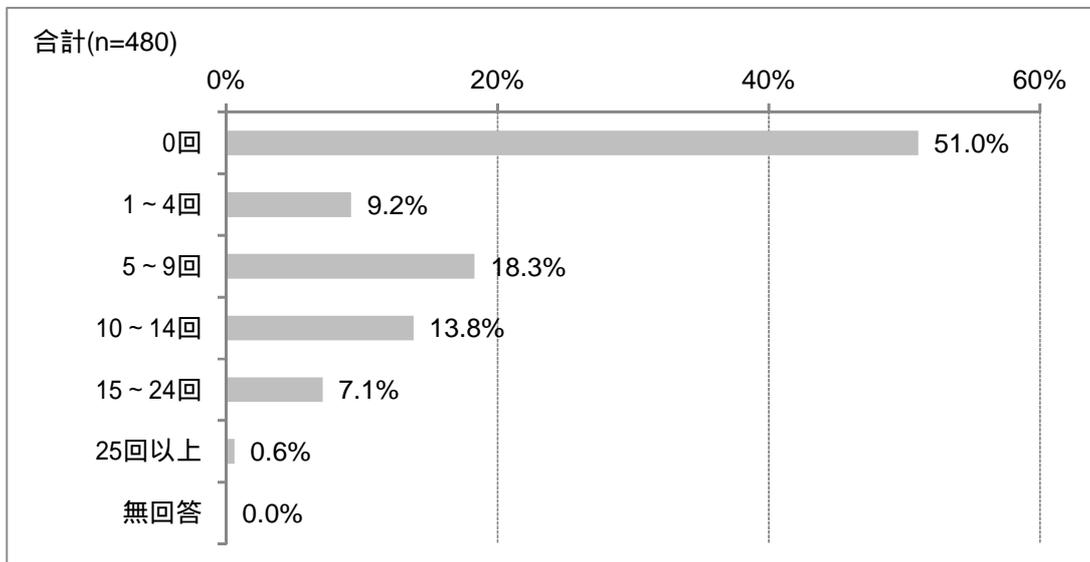
図表3-5 サービスの利用回数（訪問系）



(6) 通所系サービスの合計利用回数

「0回」が最も多く半数以上を占めた。次いで「5～9回」が18.3%、「10～14回」が13.8%と続いた。また、10回以上利用している割合は約2割であった。

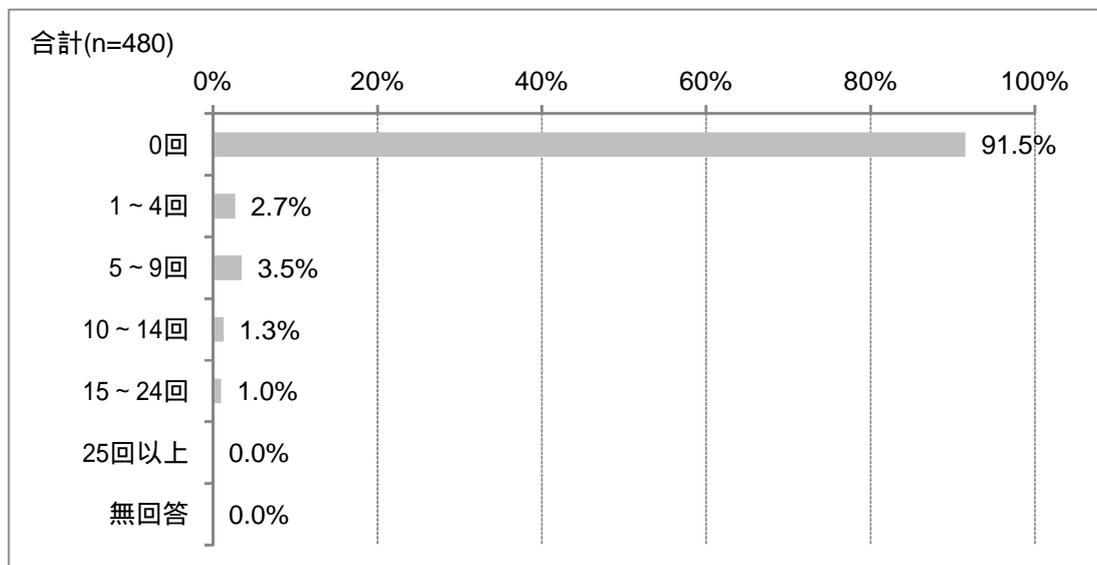
図表3-6 サービスの利用回数（通所系）



(7) 短期系サービスの合計利用回数

「0回」が91.5%と、9割を超えた。

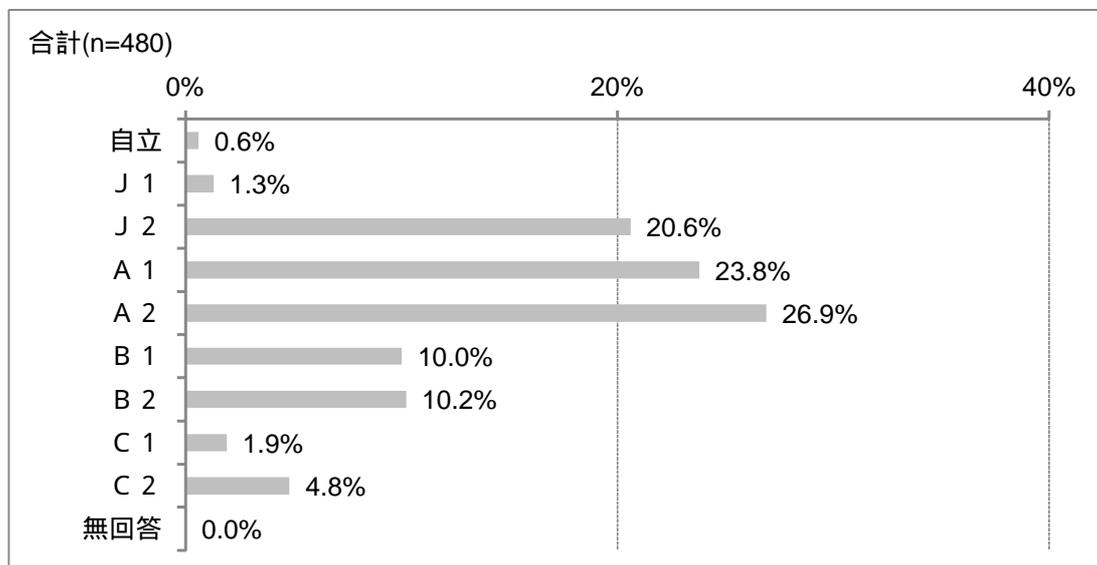
図表 3-7 サービスの利用回数（短期系）



(8) 障害高齢者の日常生活自立度

「J2」が20.6%、「A1」が23.8%、「A2」が26.9%であった。BおよびCランクの合計は26.9%と4分の1強を占めた。

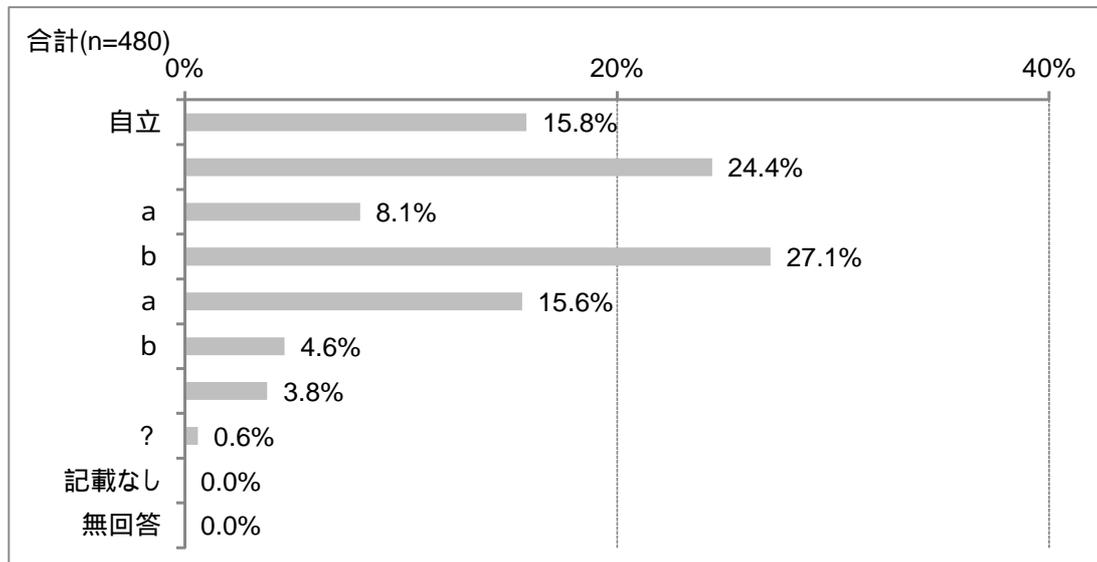
図表 3-8 障害高齢者の日常生活自立度



(9) 認知症高齢者の日常生活自立度

「 b 」が 27.1%と最も多く、「 」が 24.4%、「自立」が 15.8%と続いた。また、認知症 以上は、24.6%と約 4 分の 1 を占めた。

図表 3-9 認知症高齢者の日常生活自立度



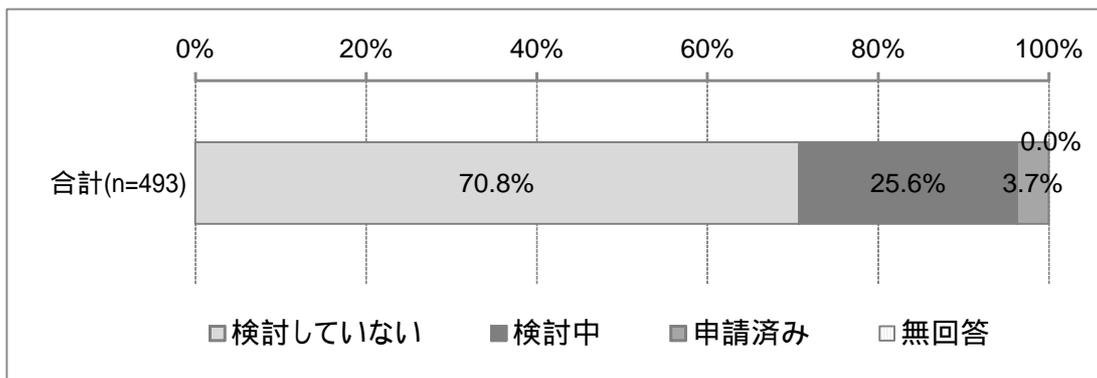
調査結果の詳細（クロス集計結果）

1 サービス利用状況等と介護者が不安に感じる介護

(1) 基礎集計

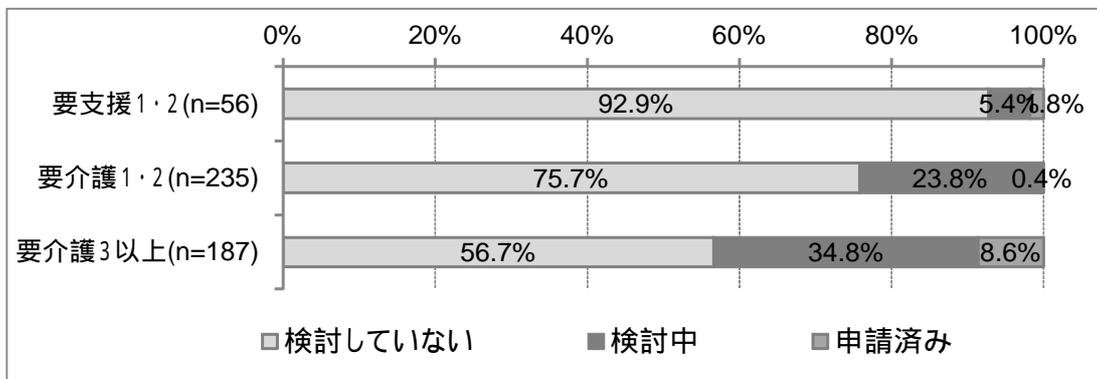
施設等検討の状況は、「検討していない」が70.8%と7割を超えた。一方、「検討中」または「申請済み」は合わせて29.3%であった。

図表 1-1 施設等検討の状況



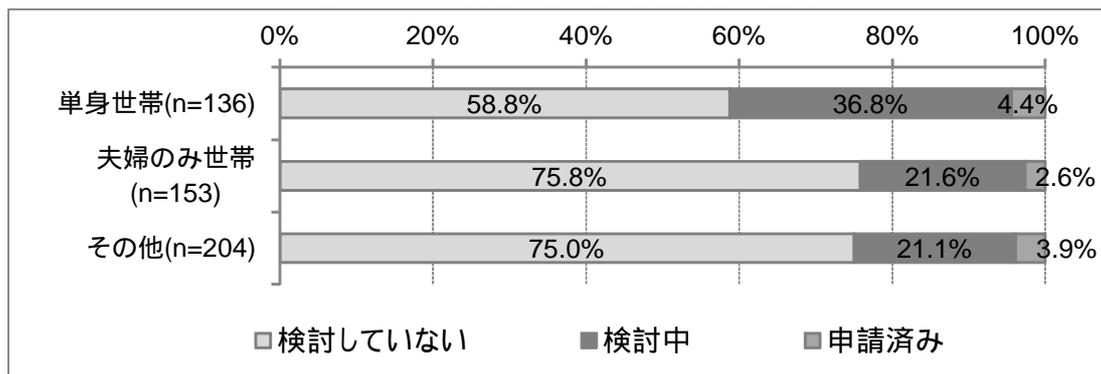
要介護度別の施設等検討状況で施設等の入所を「検討中」または「申請済み」は、『要支援1・2』で7.1%、『要介護1・2』は24.2%、『要介護3以上』は43.4%であり重度化に伴い検討中や申請済みの割合が多くなっていった。一方、『要介護度3以上』においても「検討していない」が56.7%と半数を超えた。

図表 1-2 要介護度別・施設等検討の状況



世帯類型別・施設等検討の状況で施設等の入所を「検討中」または「申請済み」は、「単身世帯」で41.2%、「夫婦のみ世帯」で24.2%であった。

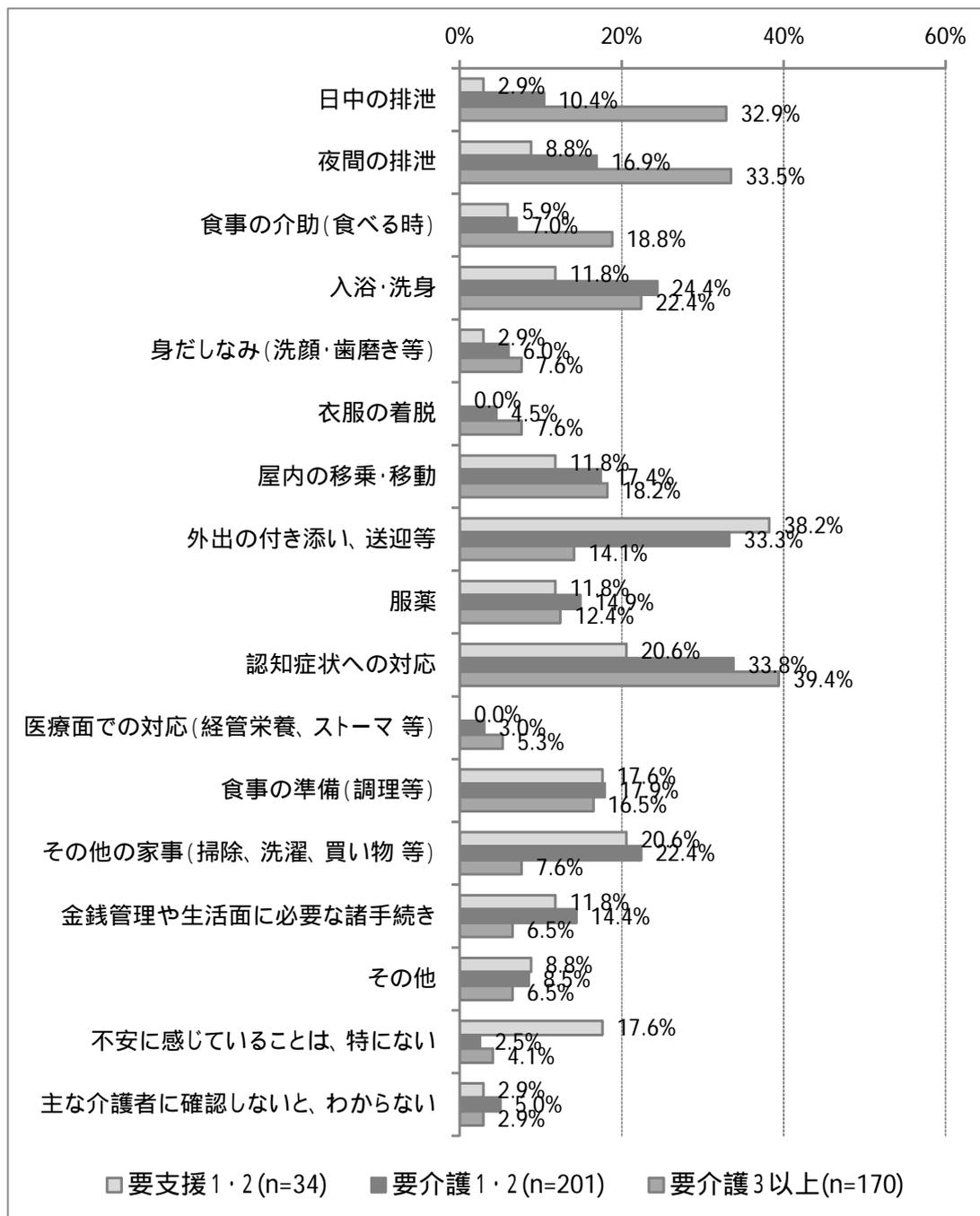
図表 1-3 世帯類型別・施設等検討の状況



(2) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化

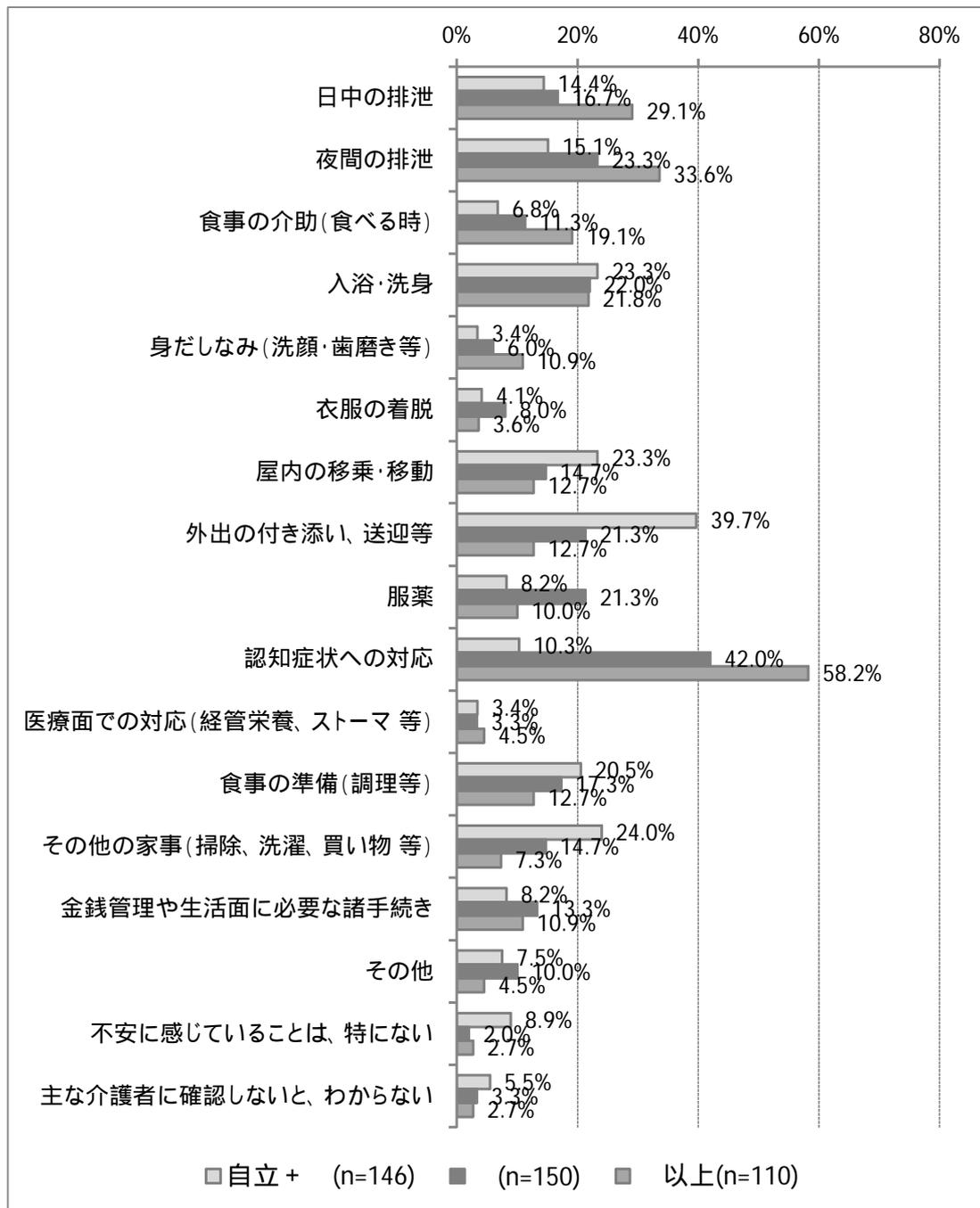
「要支援1・2」では「外出の付き添い、送迎等」が38.2%と最も多く、「要介護1・2」と「要介護3以上」では「認知症状への対応」が最も多く、各々33.8%、39.4%であった。また、「要介護3以上」では、「夜間の排泄」が33.5%、「日中の排泄」が32.9%と3割を超えた。

図表 1-4 要介護度別・介護者が不安に感じる介護



認知症自立度「 」および「 」以上」では「認知症状への対応」が最も多く各々42.0%、58.2%であった。「自立+ 」では「外出の付き添い、送迎等」が最も多く39.7%であった。「 」以上」では「夜間の排泄」33.6%、「日中の排泄」29.1%と続いた。

図表 1-5 認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護



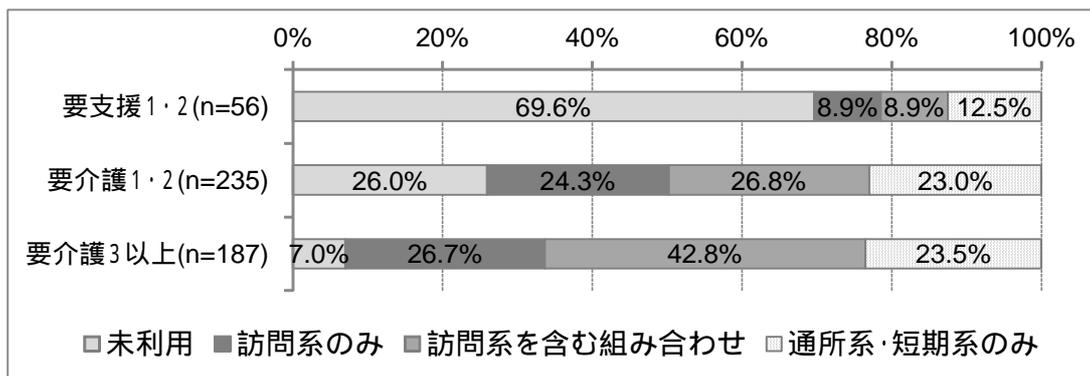
(3) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化

「要支援1・2」では「未利用」が最も多く約7割を占めていた。

「要介護1・2」では「未利用」「訪問系のみ」「訪問系を含む組み合わせ」「通所系・短期系のみ」各々が約4分の1となっていた。

「要介護3以上」は「訪問系を含む組み合わせ」が4割を超え、「未利用」は7.0%にとどまった。要介護度の重度化に伴い、「未利用」の割合が減少し、「訪問系のみ」「訪問系を含む組み合わせ」「通所系・短期系のみ」とも利用割合が増していた。特に「訪問系を含む組み合わせ」の増加が顕著であった。

図表 1-6 要介護度別・サービス利用の組み合わせ



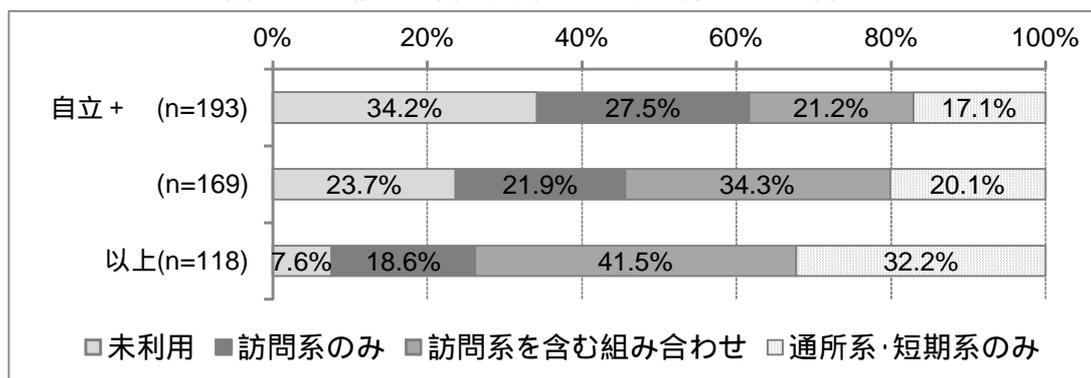
「自立+」は「未利用」が34.2%と最も多く、「通所系・短期系のみ」が17.1%と最も少なかった。

「」では、「訪問系を含む組み合わせ」が約3割を超え、「未利用」「訪問系のみ」「通所系・短期系のみ」も各々2割を超えた。

「以上」では、「訪問系を含む組み合わせ」が最も多く4割を超え、「未利用」は7.6%となっていた。

認知症自立度の重度化に伴い、「未利用」および「訪問系のみ」の割合が減少し、「訪問系を含む組み合わせ」および「通所系・短期系のみ」の割合が増していた。

図表 1-7 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ

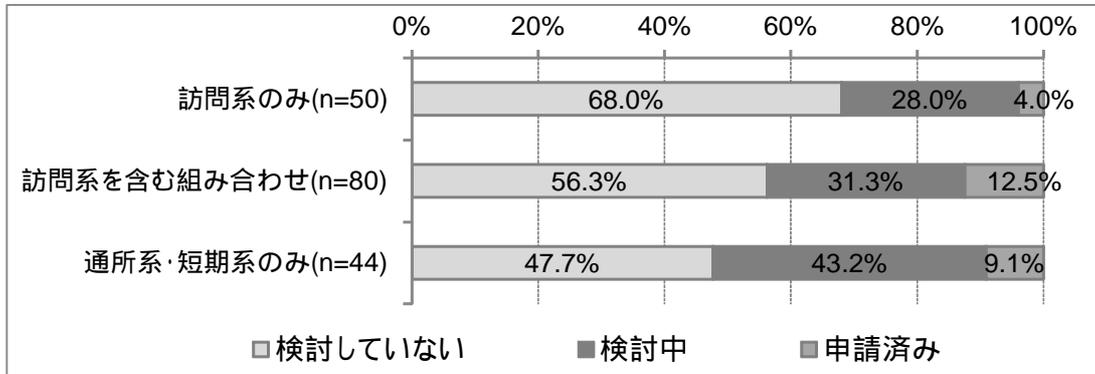


(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係

【要介護3以上】

施設等の入所を「検討していない」割合は、「訪問系のみ」のサービス利用者で最も多く68.0%、「訪問系を含む組み合わせ」で56.3%、「通所系・短期系のみ」で47.7%となっていた。

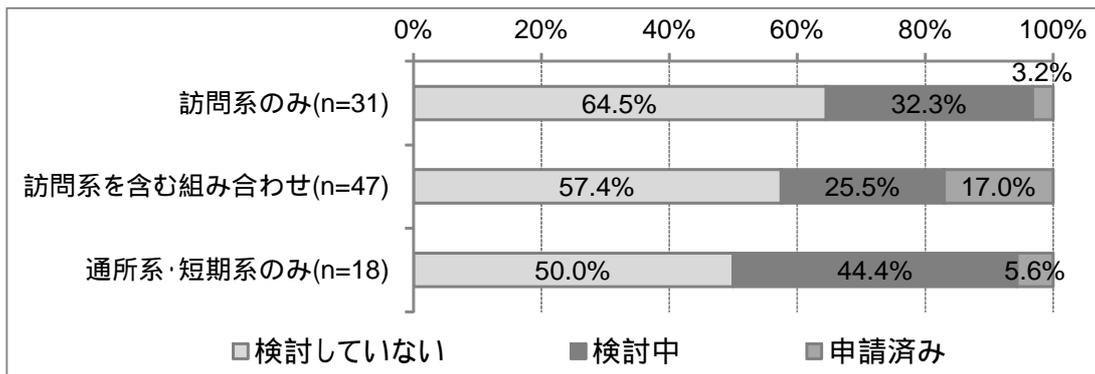
図表 1-8 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）



【要介護4以上】

施設等の入所を「検討していない」割合は、「訪問系のみ」のサービス利用者で最も多く64.5%、「訪問系を含む組み合わせ」で57.4%、「通所系・短期系のみ」で50.0%となっていた。

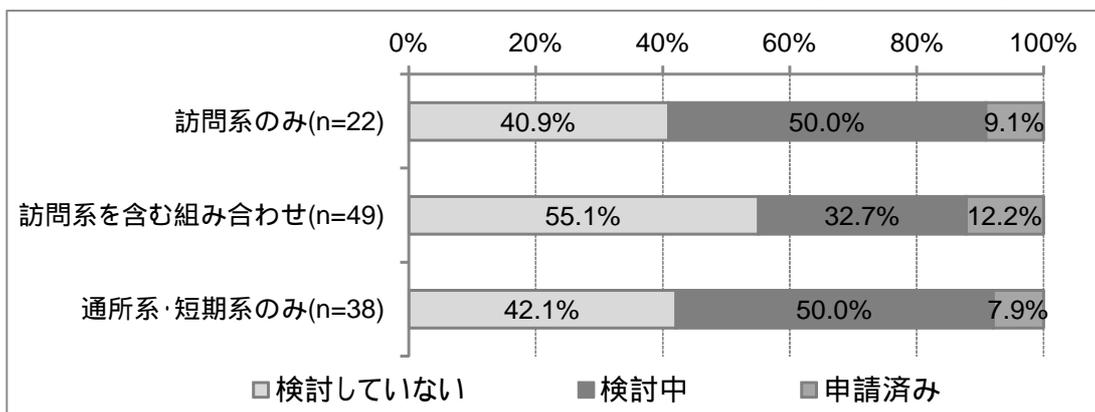
図表 1-9 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）



【認知症 以上】

施設等の入所を「検討中」および「申請済み」の割合は、「訪問系のみ」のサービス利用者で59.1%、「訪問系を含む組み合わせ」の利用者で44.9%、「通所系・短期系のみ」利用者で57.9%となっている。一方「検討していない」のは「訪問系を含む組み合わせ」で最も多く55.1%であった。

図表 1-10 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症 以上）



(5) 「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安を感じる介護」の関係

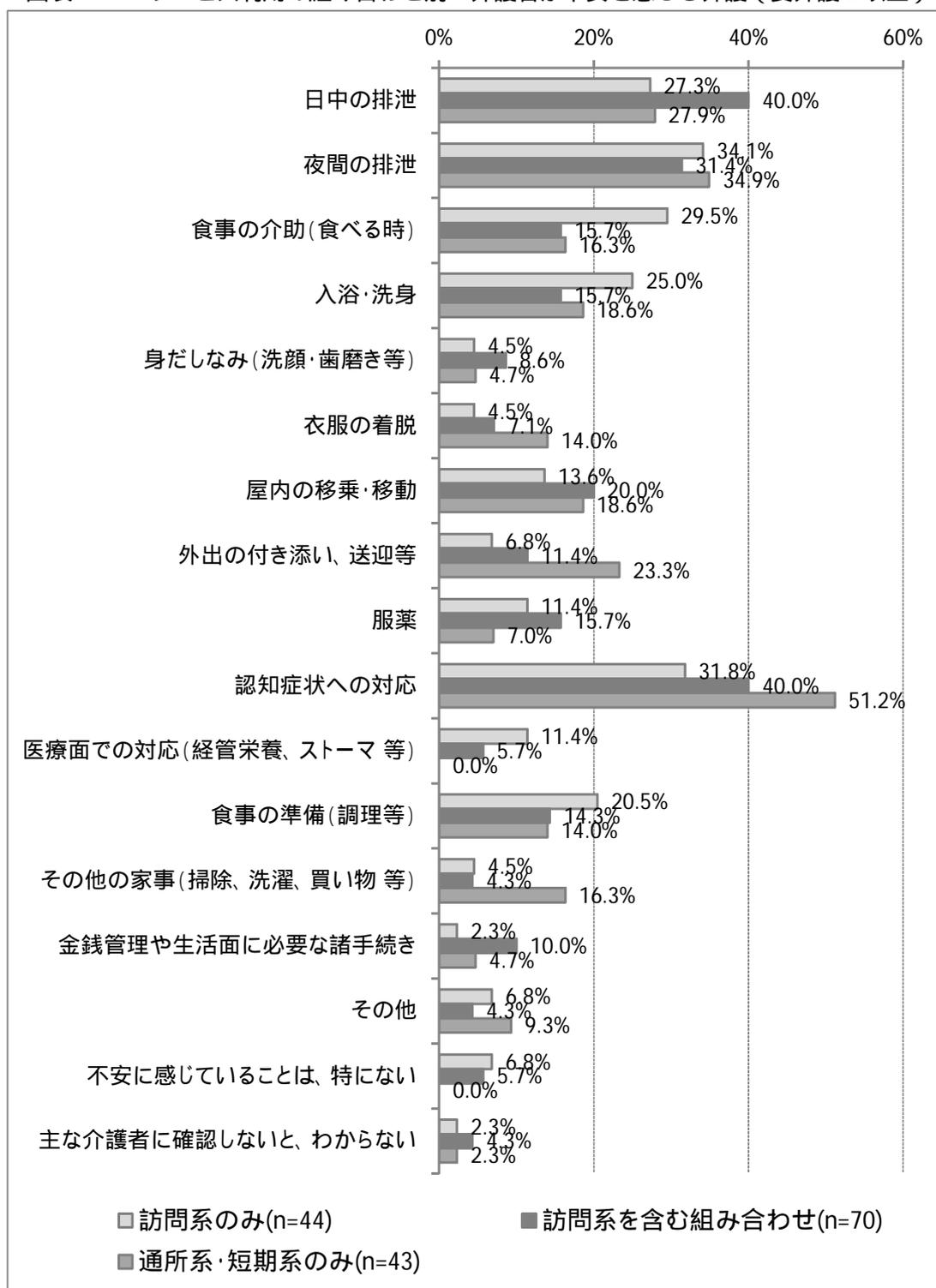
【要介護3以上】

『訪問系のみ』のサービス利用では、「夜間の排泄」が34.1%と最も多く、「認知症状への対応」が31.8%、「食事の介助」が29.5%と続いた。

『訪問系を含む組み合わせ』のサービス利用では、「日中の排泄」「認知症状への対応」が各々40.0%で最も多く、「夜間の排泄」が31.4%と続いた。

『通所系・短期系のみ』のサービス利用では、「認知症状への対応」が51.2%と最も多く、「夜間の排泄」が34.9%、「日中の排泄」が27.9%であった。

図表 1-11 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（要介護3以上）



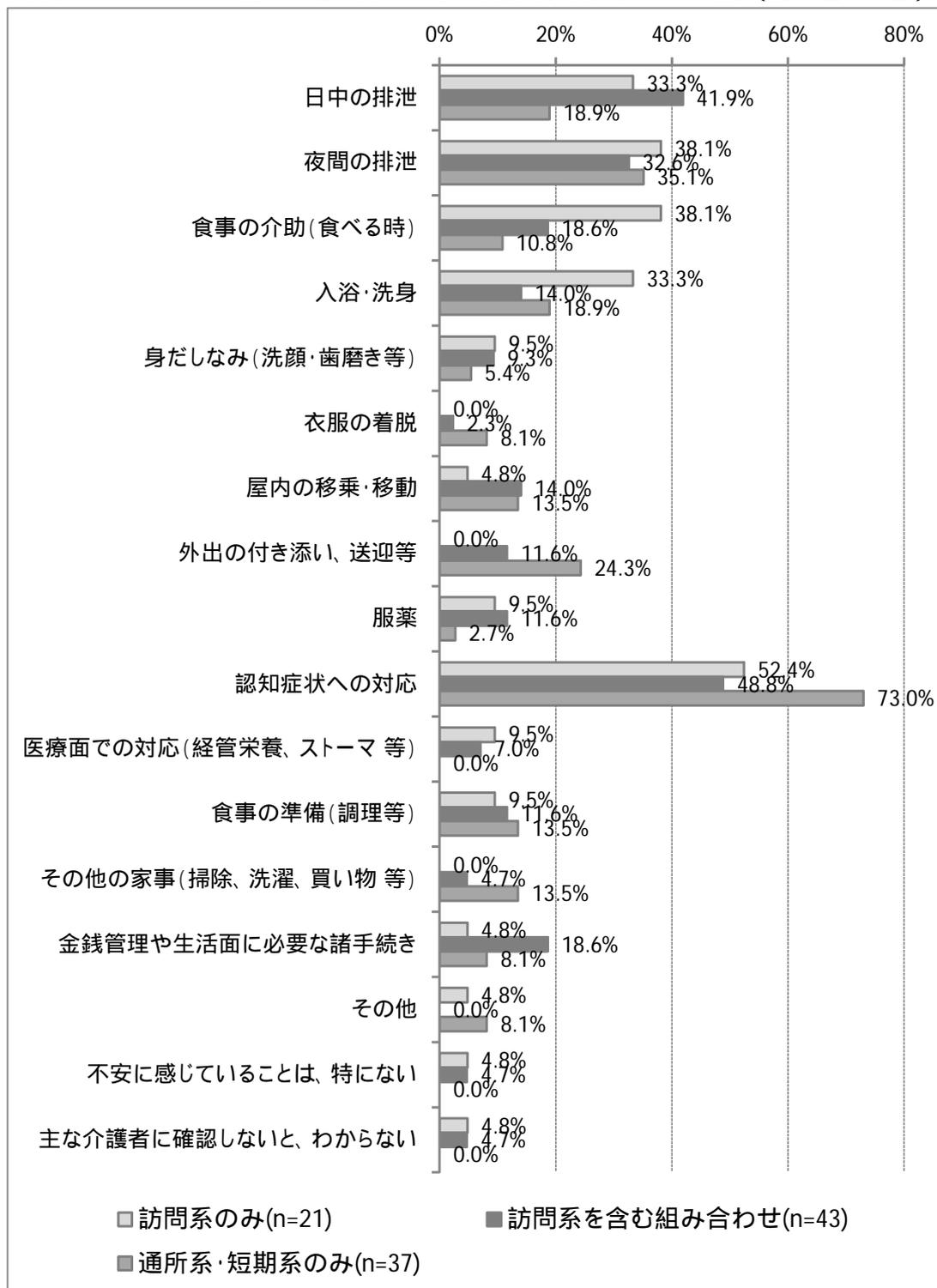
【認知症 以上】

『訪問系サービスのみ』の利用では、「認知症状への対応」が52.4%と最も多く、「夜間の排泄」「食事の介助」が各々38.1%と続いた。

『訪問系を含む組み合わせ』のサービス利用では、「認知症状への対応」が48.8%と最も多く、「日中の排泄」が41.9%、「夜間の排泄」が32.6%と続いた。

『通所系・短期系のみ』のサービス利用では、「認知症状への対応」が73.0%と最も多く、「夜間の排泄」が35.1%、「外出の付き添い、送迎等」が24.3%と続いた。

図表 1-12 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（認知症 以上）



(6) 「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」の関係

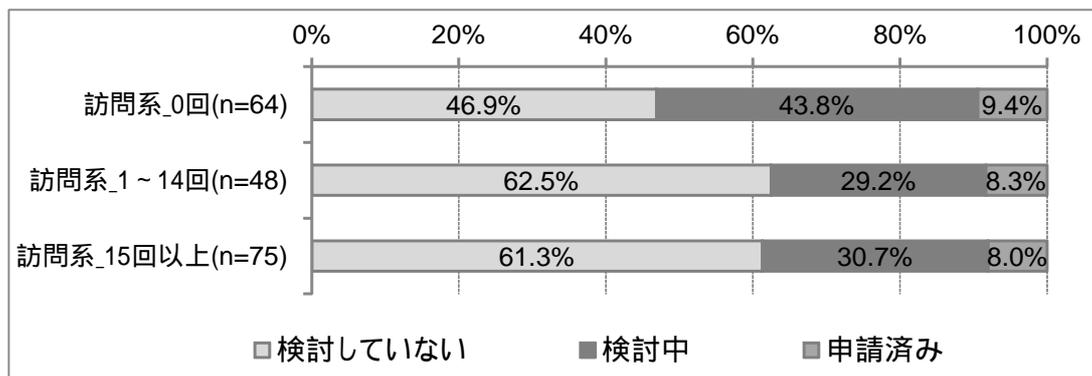
【訪問系サービス利用、要介護3以上】

利用回数『0回』では、施設入所・入居を「検討中」が43.8%、「検討していない」が46.9%であった。

利用回数『1～14回』では、施設入所・入居を「検討していない」が62.5%、「検討中」が29.2%であった。

利用回数『15回以上』では、施設入所・入居を「検討していない」が61.3%、「検討中」が30.7%であった。

図表 1-13 サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、要介護3以上）



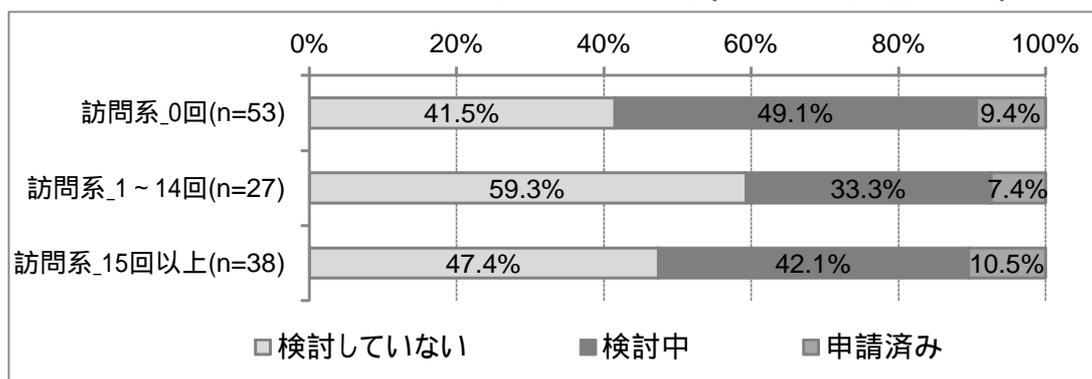
【訪問系サービス利用、認知症 以上】

利用回数『0回』では、施設入所・入居を「検討中」が49.1%、「検討していない」が41.5%であった。

利用回数『1～14回』では、施設入所・入居を「検討していない」が59.3%、「検討中」が33.3%であった。

利用回数『15回以上』では、施設入所・入居を「検討していない」が47.4%、「検討中」が42.1%であった。

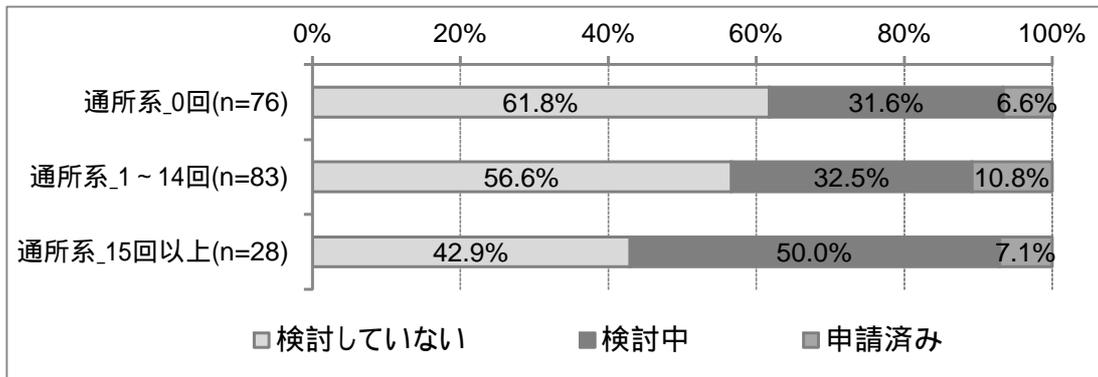
図表 1-14 サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、認知症 以上）



【通所系、要介護3以上】

利用回数が多くなるに従い、「検討中」の割合が高くなっていった。（『0回』：31.6%、『1～14回』：32.5%、『15回以上』：50.0%）

図表 1-15 サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、要介護3以上）

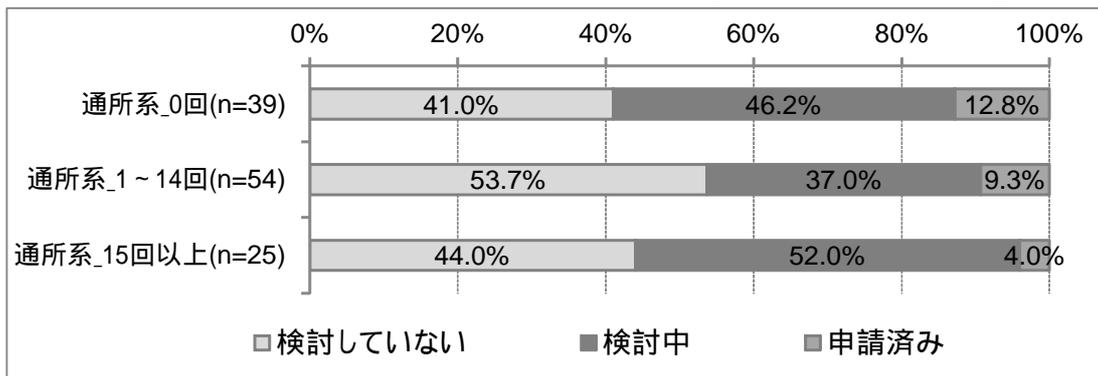


【通所系、認知症 以上】

「検討していない」割合は、『利用回数1～14回』が最も高く53.7%で、次いで『15回以上』の44.0%であった。

「検討中」の割合は、『利用回数15回以上』が最も高く52.0%で、次いで『0回』の46.2%であった。

図表 1-16 サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、認知症 以上）

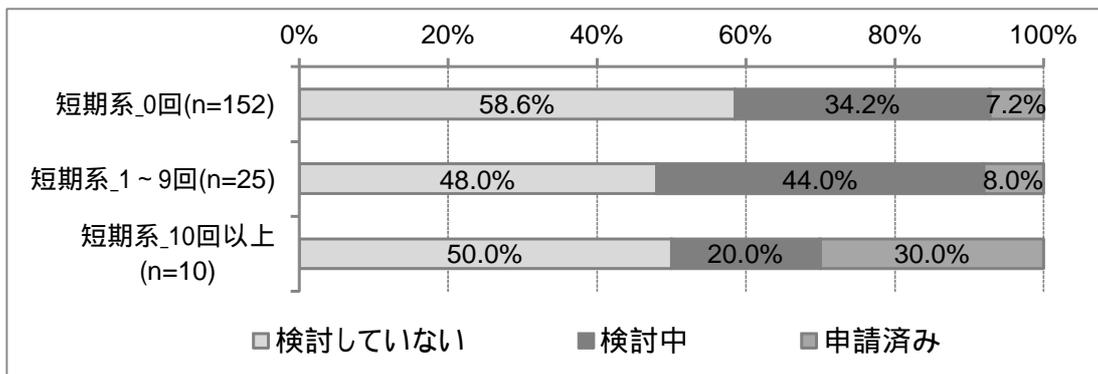


【短期系、要介護3以上】

「検討していない」割合は、利用回数『0回』が最も高く58.6%で、次いで『10回以上』の50.0%であった。

「検討中」の割合は、利用回数『1～9回』が最も高く44.0%で、次いで『0回』の34.2%であった。

図表 1-17 サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、要介護3以上）

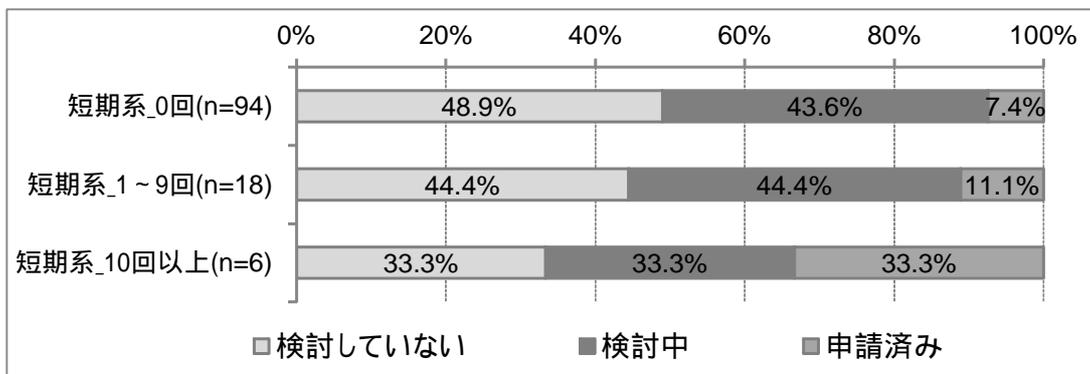


【短期系、認知症 以上】

利用回数が多くなるに従い、「検討していない」割合が低くなっていた（0回：48.9%、1～9回：44.4%、10回以上：33.3%）。

「検討中」の割合は、『1～9回』が最も高く44.4%で、次いで『0回』の43.6%であった。

図表 1-18 サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、認知症 以上）



(7) 「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安を感じる介護」の関係

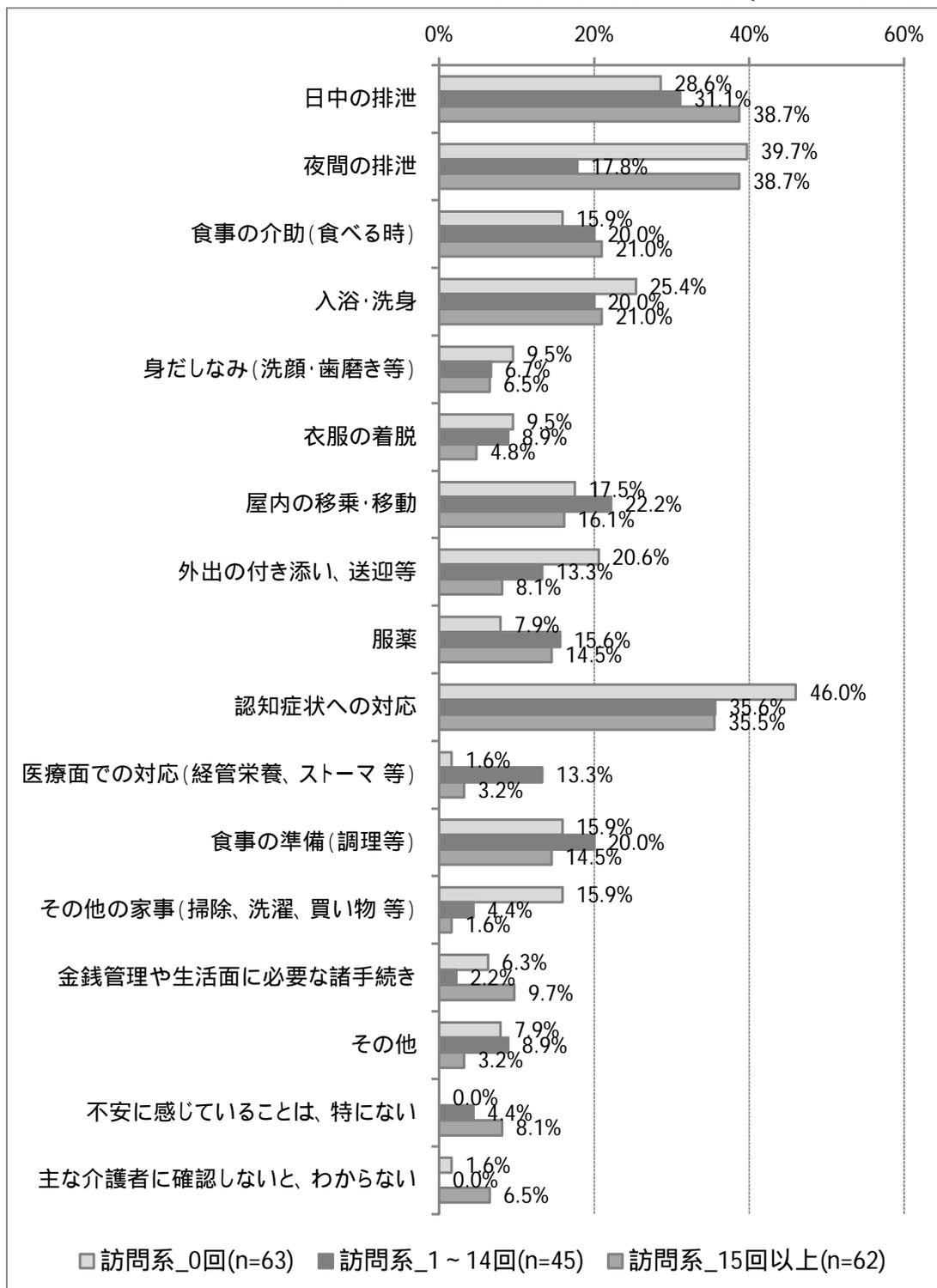
【訪問系、要介護3以上】

『0回』では、「認知症状への対応」が46.0%で、「夜間の排泄」が39.7%、「日中の排泄」が28.6%と続いた。

『1～14回』では、「認知症状への対応」が35.6%で、「日中の排泄」が31.1%、「屋内の移乗・移動」が22.2%と続いた。

『15回以上』では、「日中の排泄」と「夜間の排泄」が各々38.7%で、「認知症状への対応」が35.5%と続いた。

図表 1-19 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、要介護3以上）



【訪問系、認知症 以上】

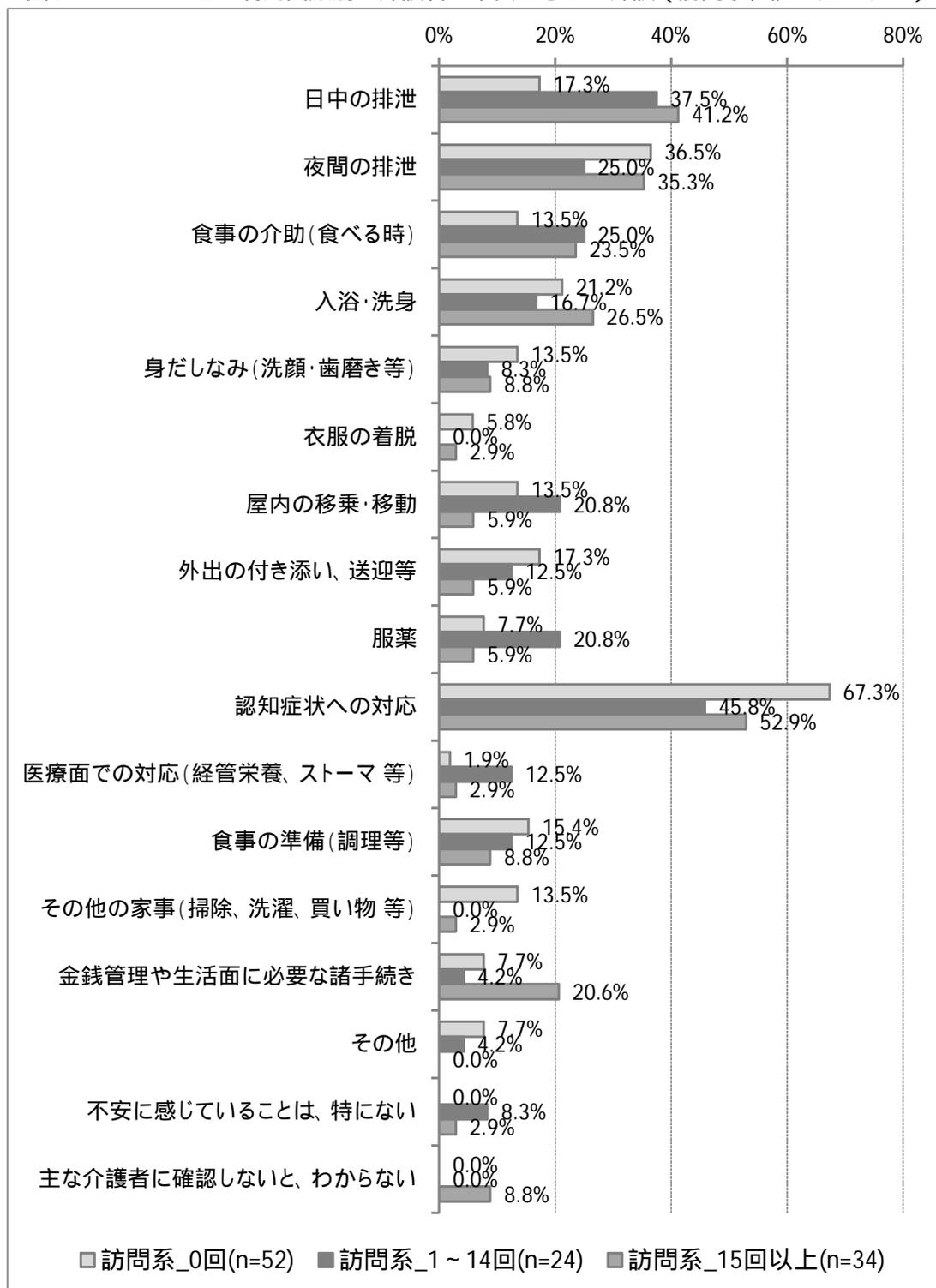
いずれの利用回数においても、「認知症状への対応」の割合が最も高かった。(0回：67.3%、1～14回：45.8%、15回以上：52.9%)

「0回」では、「夜間の排泄」が36.5%、「入浴・洗身」が21.2%と続いた。

「1～14回」では「日中の排泄」が37.5%、「夜間の排泄」「食事の介助」が各々25.0%と続いた。

「15回以上」では、「日中の排泄」が41.2%、「夜間の排泄」が35.3%と続いた。

図表 1-20 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、認知症 以上）



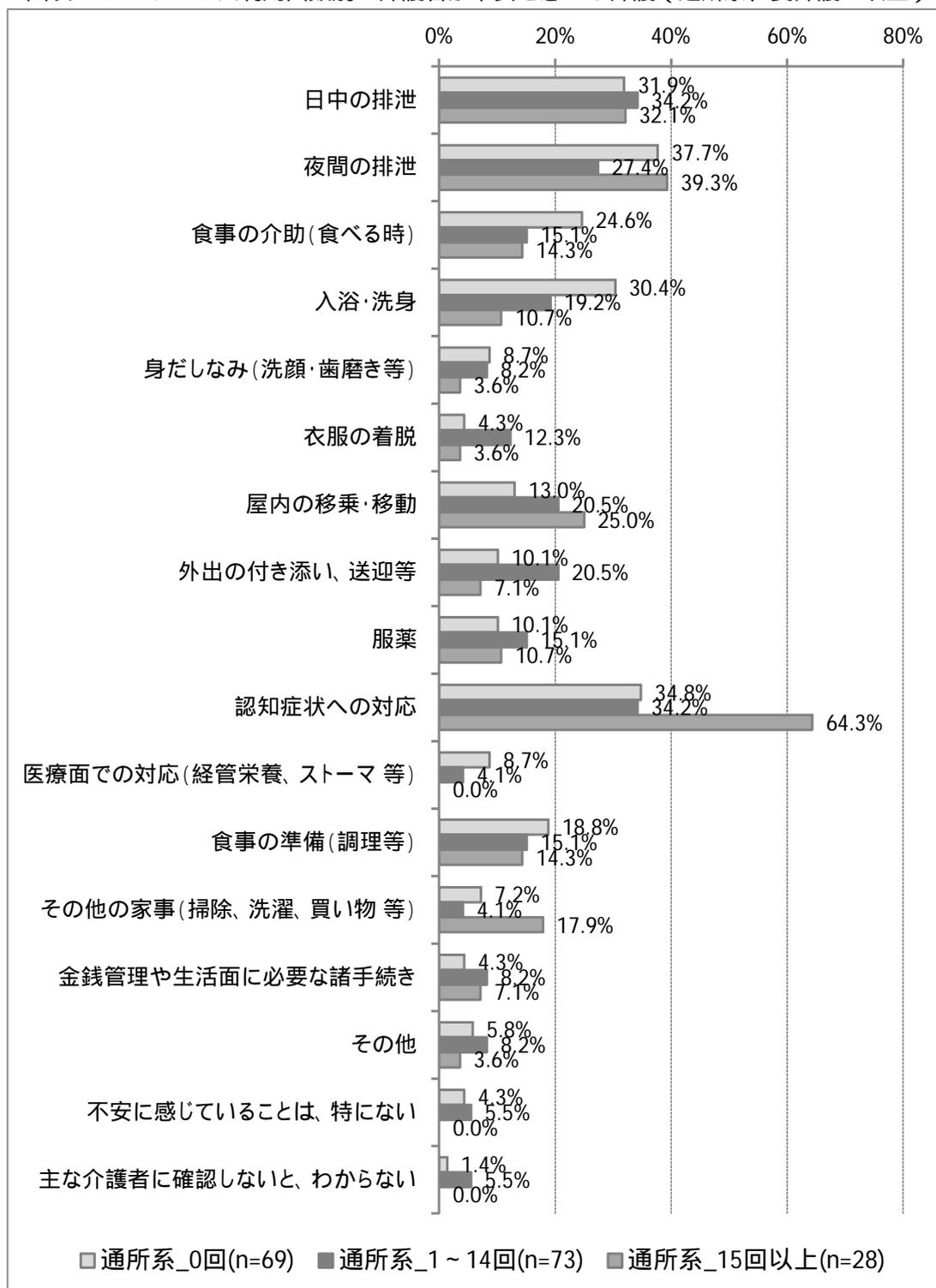
【通所系、要介護3以上】

「0回」では、「夜間の排泄」が37.7%で、「認知症状への対応」が34.8%、「日中の排泄」が31.9%と続いた。

「1～14回」では、「認知症状への対応」と「日中の排泄」が各々34.2%で、「夜間の排泄」が27.4%と続いた。

「15回以上」では、「認知症状への対応」が64.3%と高く、「夜間の排泄」が39.3%、「日中の排泄」が32.1%と続いた。

図表 1-21 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、要介護3以上）



【通所系、認知症 以上】

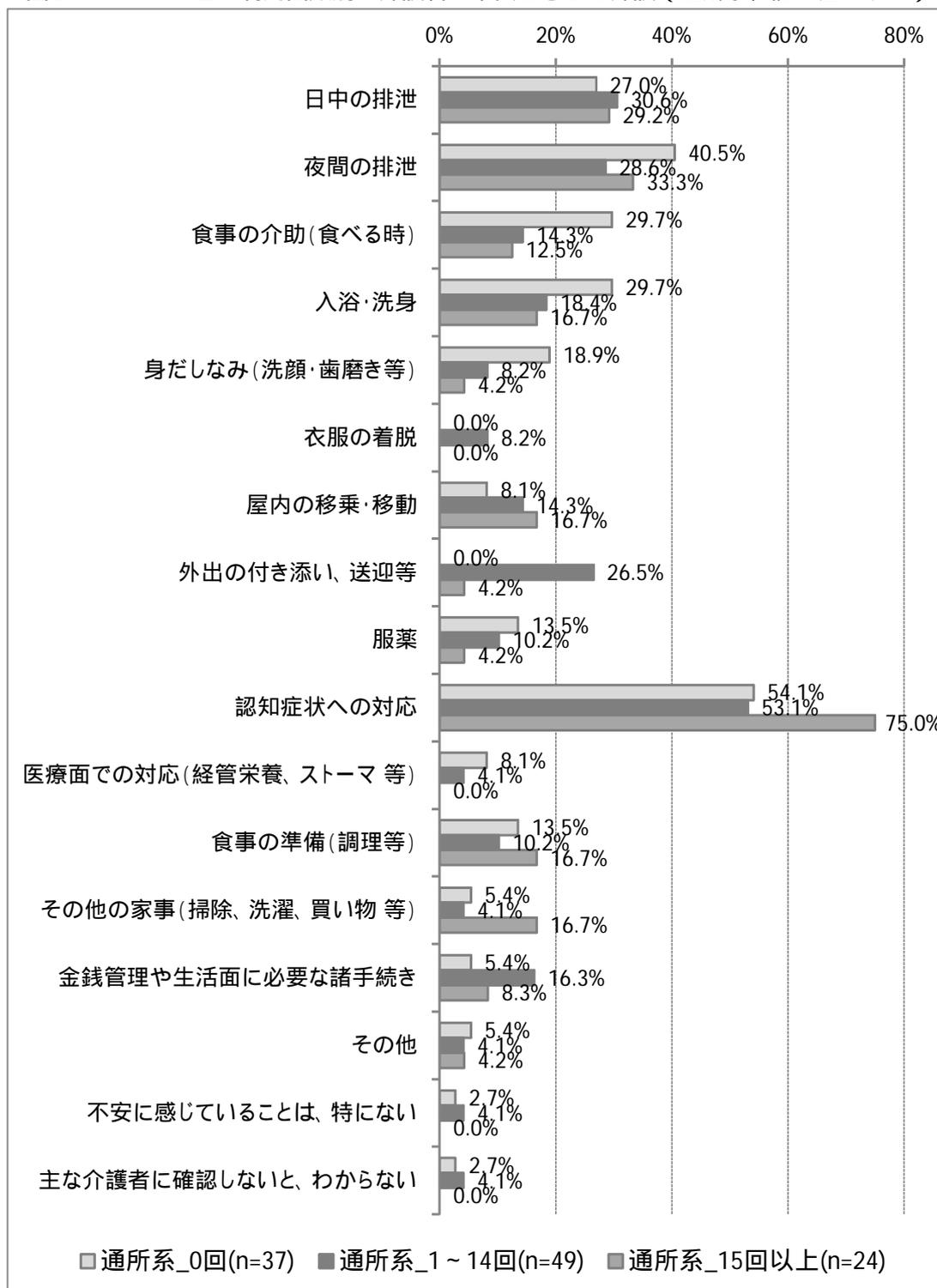
いずれの利用回数においても「認知症状への対応」の割合が高かった（『0回』：54.1%、『1～14回』：53.1%、『15回以上』：75.0%）

『0回』では、「夜間の排泄」が40.5%、「食事の介助」と「入浴・洗身」が各々29.7%と続いた。

『1～14回』では、「日中の排泄」が30.6%、「夜間の排泄」が28.6%と続いた。

『15回以上』では、「夜間の排泄」が33.3%、「日中の排泄」が29.2%と続いた。

図表 1-22 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、認知症 以上）



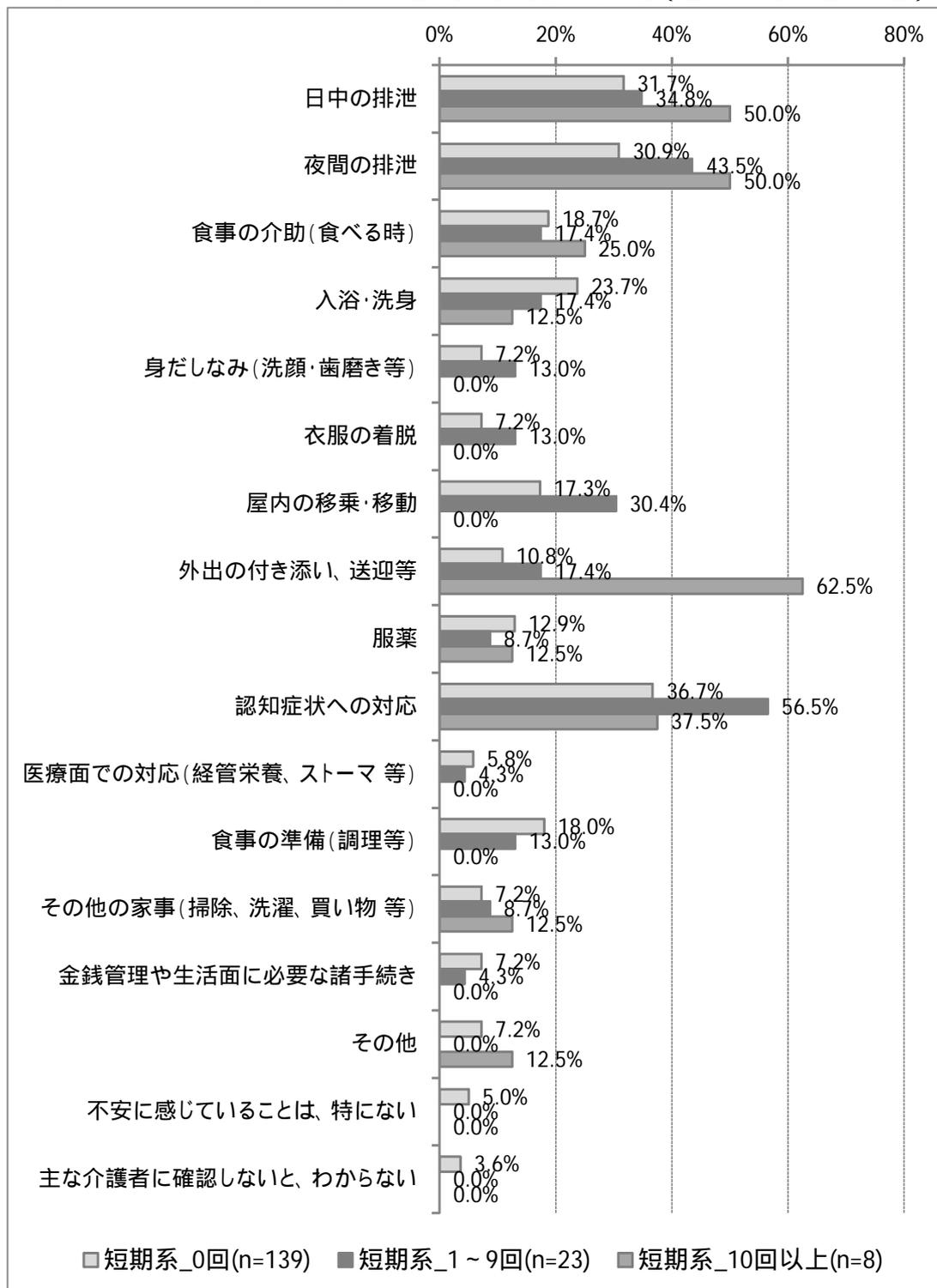
【短期系、要介護3以上】

『0回』では、「認知症状への対応」が36.7%で、「日中の排泄」が31.7%、「夜間の排泄」が30.9%と続いた。

『1～9回』では、「認知症状への対応」が56.5%で、「夜間の排泄」が43.5%、「日中の排泄」が34.8%と続いた。

『10回以上』では、「外出の付き添い、送迎等」が62.5%と高く、「日中の排泄」と「夜間の排泄」が各々50.0%と続いた。

図表 1-23 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、要介護3以上）



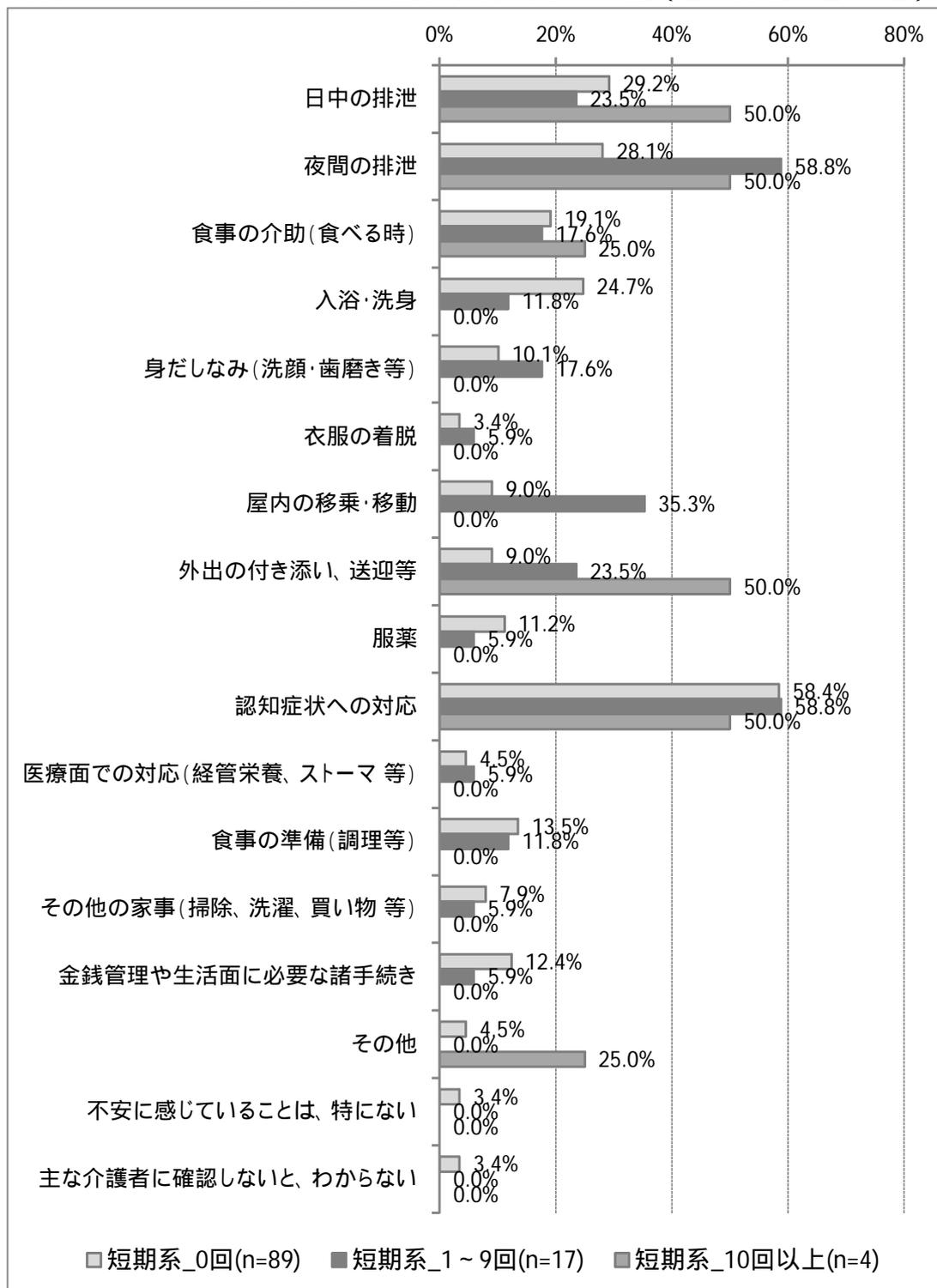
【短期系、認知症 以上】

『0回』では、「認知症状への対応」が最も多く58.4%で、「日中の排泄」が29.2%、「夜間の排泄」が28.1%と続いた。

『1～9回』では、「認知症状への対応」と「夜間の排泄」が最も多く58.8%で、「屋内の移乗・移動」が35.3%と続いた。

『10回以上』では、「認知症状への対応」、「日中の排泄」および「夜間の排泄」が最も多く50.0%であった。

図表 1-24 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、認知症 以上）

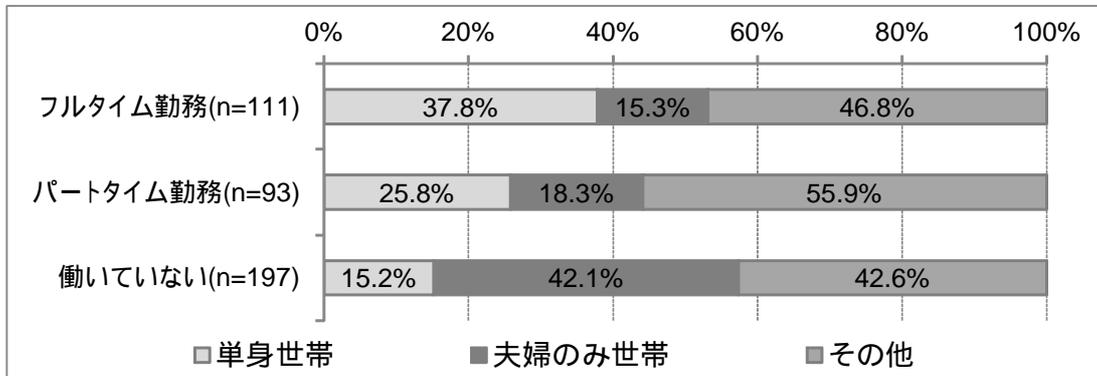


2 主な介護者の就労状況と就労継続見込み

(1) 基本集計

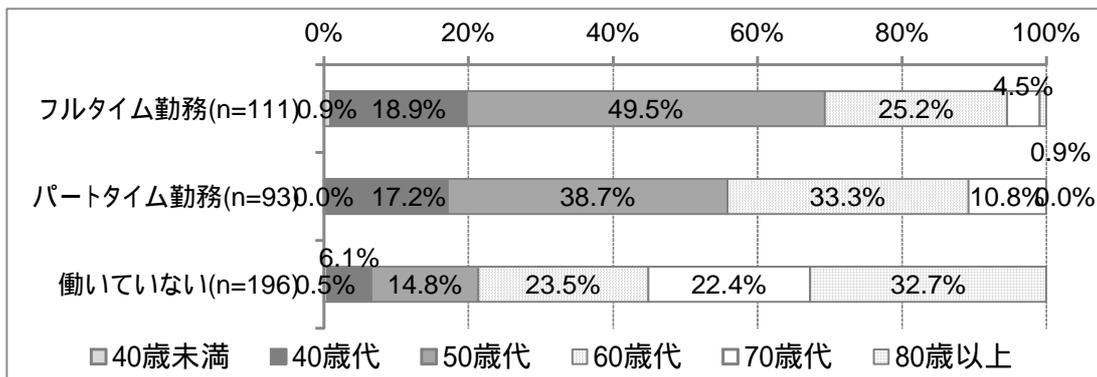
「単身世帯」では『フルタイム勤務』が37.8%と最も多く、「夫婦のみ世帯」では『働いていない』が42.1%と最も多かった。

図表 2-1 就労状況別・世帯類型



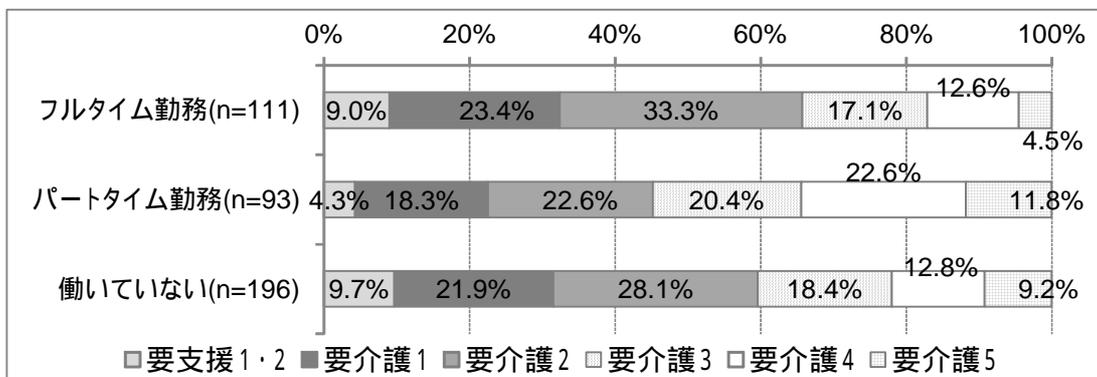
介護者の年齢が「50歳代」は『フルタイム勤務』が49.5%と最も多く、「60歳代」では『パートタイム勤務』が33.3%と最も多かった。

図表 2-2 就労状況別・主な介護者の年齢



『フルタイム勤務』『パートタイム勤務』『働いていない』のいずれにおいても「要介護2」が最も多く各々33.3%、22.6%、28.1%となっていた。

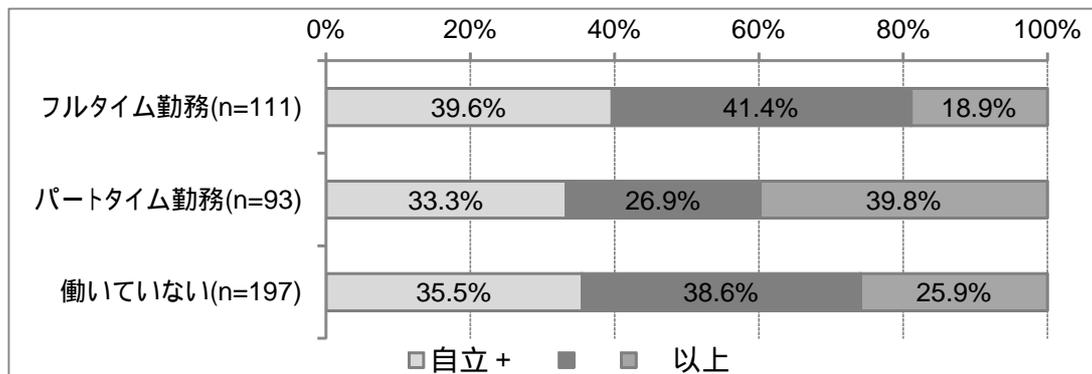
図表 2-3 就労状況別・要介護度



『フルタイム勤務』および『働いていない』は「認知症自立度」が最も多く、各々41.4%、38.6%であった。

『パートタイム勤務』は「認知症自立度 以上」が最も多く 39.8%であった。

図表 2-4 就労状況別・認知症自立度

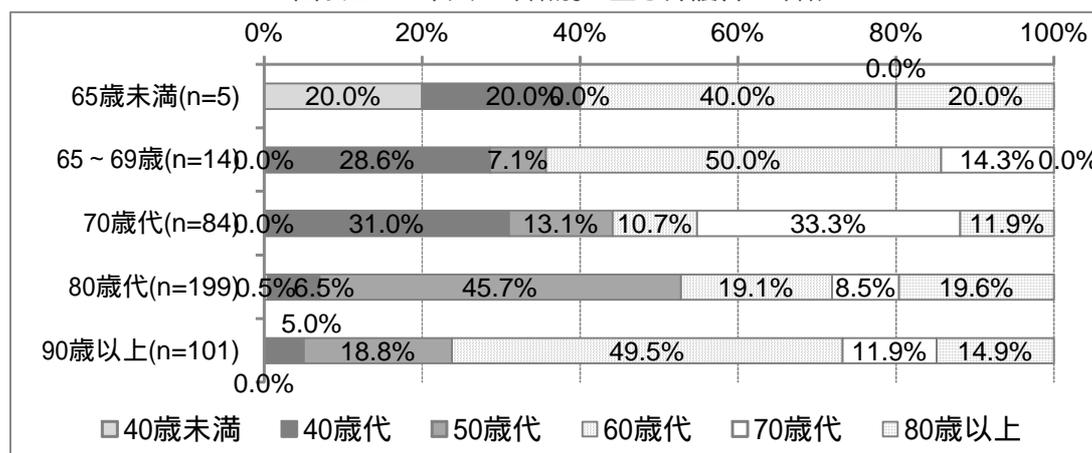


本人の年齢が『65歳未満』『65～69歳』『90歳以上』では主な介護者の年齢は「60歳代」が最も多く各々40.0%、50.0%、49.5%となっていた。

本人の年齢が『70歳代』では主な介護者は「70歳代」が最も多く 33.3%で、「40歳代」が31.0%と続いた。

本人の年齢が『80歳代』では主な介護者は「40歳代」が最も多く、45.7%であった。

図表 2-5 本人の年齢別・主な介護者の年齢



(2) 就労状況別の就労継続見込み

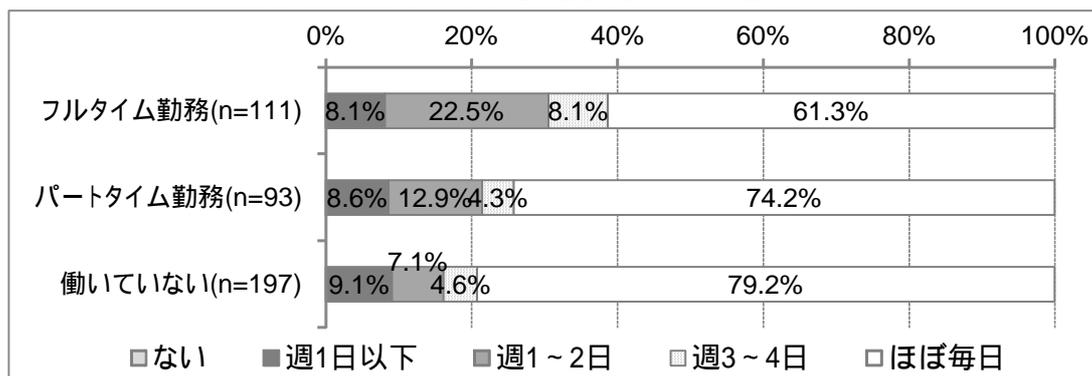
「ほぼ毎日」介護している割合は、『働いていない』が79.2%と最も高く、『パートタイム勤務』が74.2%、『フルタイム勤務』が61.3%と続いた。

就労継続見込みについては、『フルタイム勤務』『パートタイム勤務』とも「問題はあるが、何とか続けていける」が最も多く各々50.5%、60.2%であった。

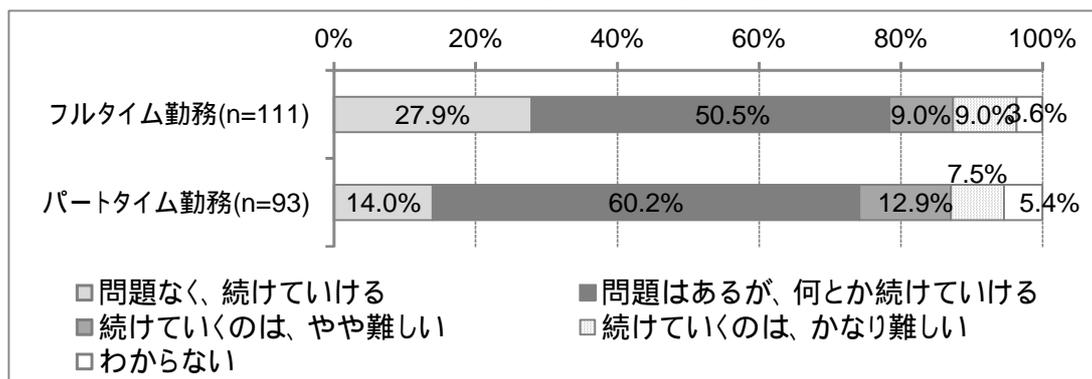
介護度と就労継続見込みについては、「要支援1～要介護1」「要介護2以上」とともに「問題はあるが、何とか続けていける」が最も多く、各々49.1%、57.1%であった。

認知症自立度別の就労継続見込みについては、「自立+」「以上」とともに「問題はあるが、何とか続けていける」が最も多く、各々49.3%、58.1%であった。

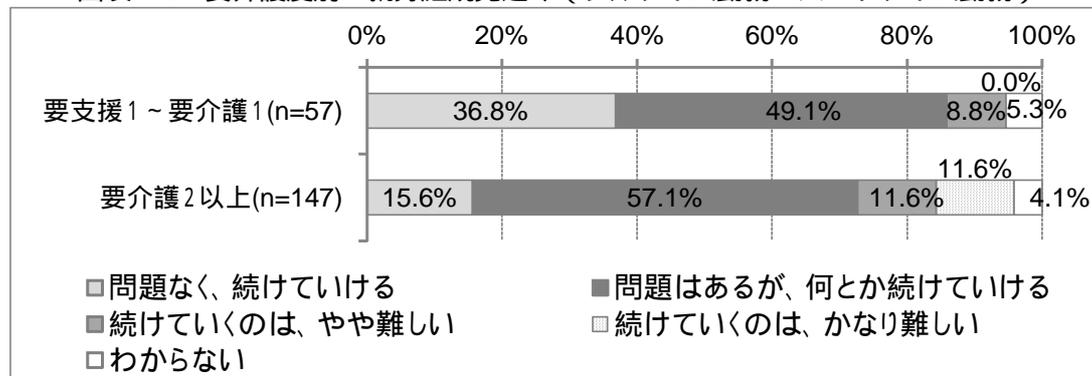
図表 2-6 就労状況別・家族等による介護の頻度



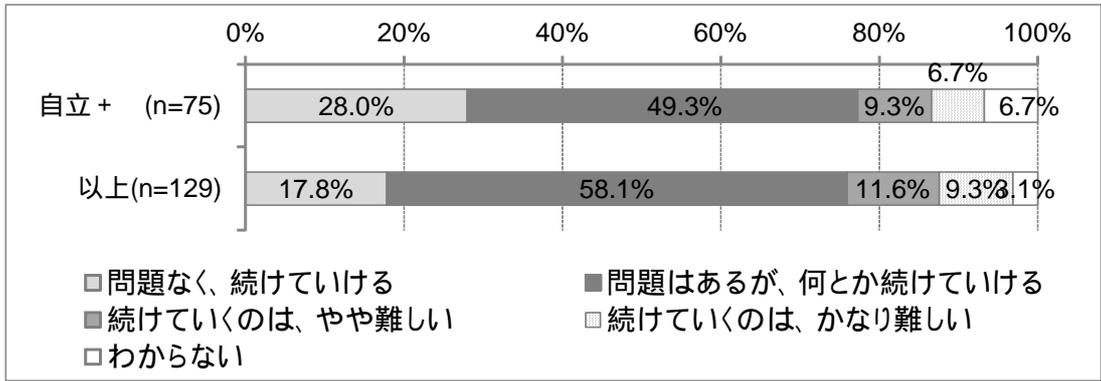
図表 2-7 就労状況別・就労継続見込み



図表 2-8 要介護度別・就労継続見込み (フルタイム勤務+パートタイム勤務)



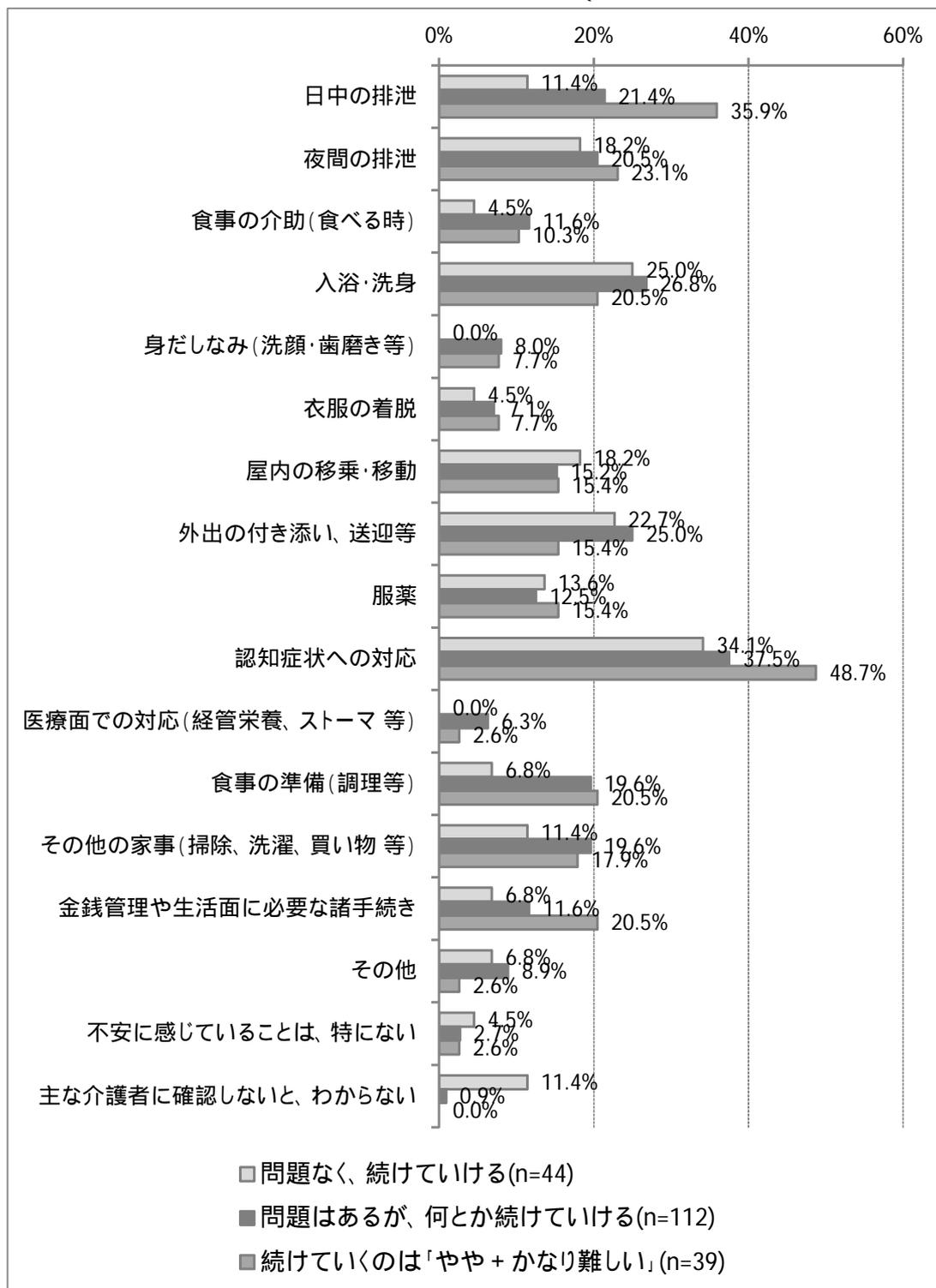
図表 2-9 認知症自立度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



(3) 「介護保険サービスの利用状況」・「主な介護者が不安を感じる介護」と「就労継続見込み」の関係

「問題なく、続けていける」「問題はあるが、何とか続けていける」「続けていくのは『やや+かなり難しい』」のいずれにおいても、「認知症状への対応」が最も多く不安を感じる介護として挙げられていた。(各々34.1%、37.5%、48.7%)

図表 2-10 就労継続見込み別・介護者が不安を感じる介護(フルタイム勤務+パートタイム勤務)

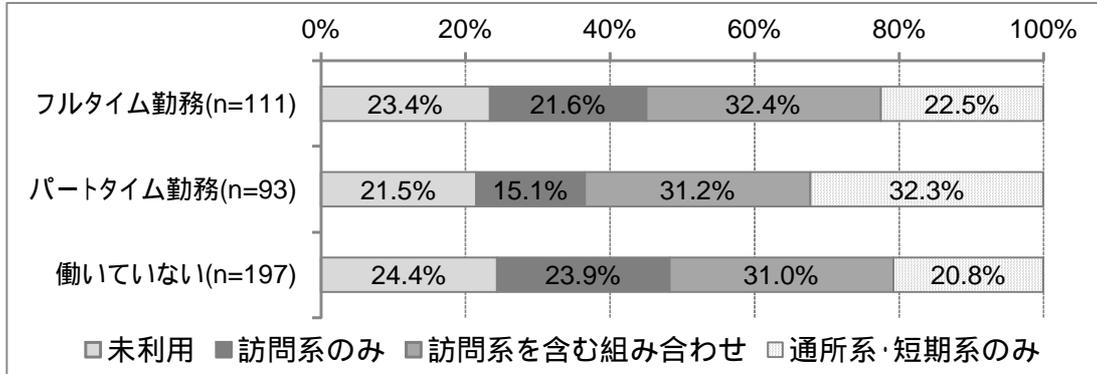


(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係

「フルタイム勤務」「働いていない」については、「訪問系を含む組み合わせ」が最も多く、各々32.4%、31.0%であった。

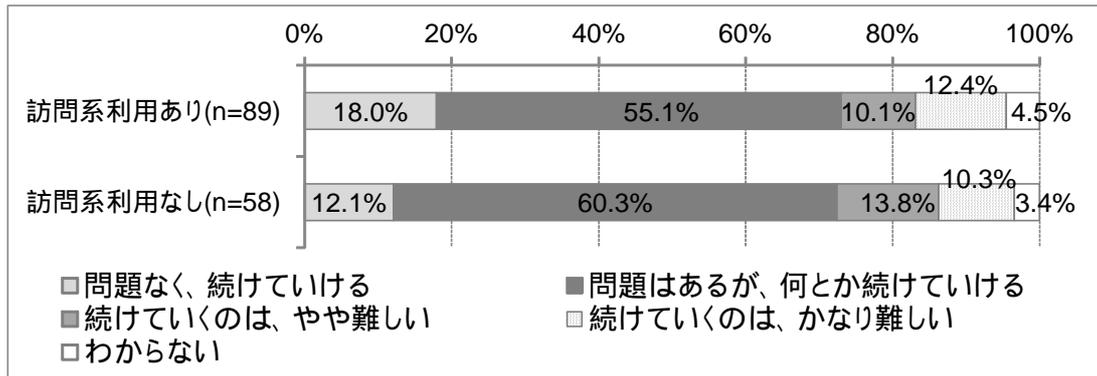
「パートタイム勤務」では「通所系・短期系のみ」が最も多く、32.3%であった。

図表 2-11 就労状況別・サービス利用の組み合わせ



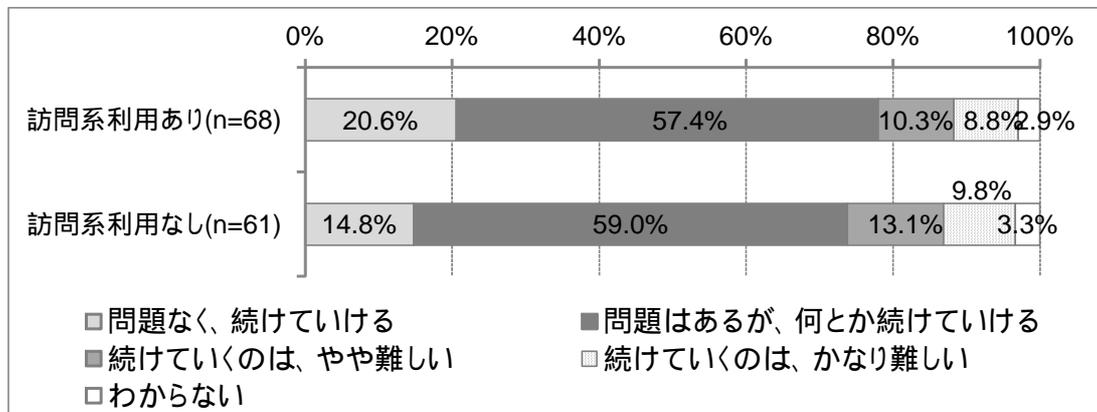
要介護2以上の就労継続見込みは「訪問系利用あり」「訪問系利用なし」とも「問題はあるが何とか続けていける」が最も多く各々55.1%、60.3%であった。

図表 2-12 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み(要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)



認知症自立度 以上においても「訪問系利用あり」「訪問系利用なし」とも「問題はあるが、何とか続けていける」が最も多く、各々57.4%、59.0%であった。

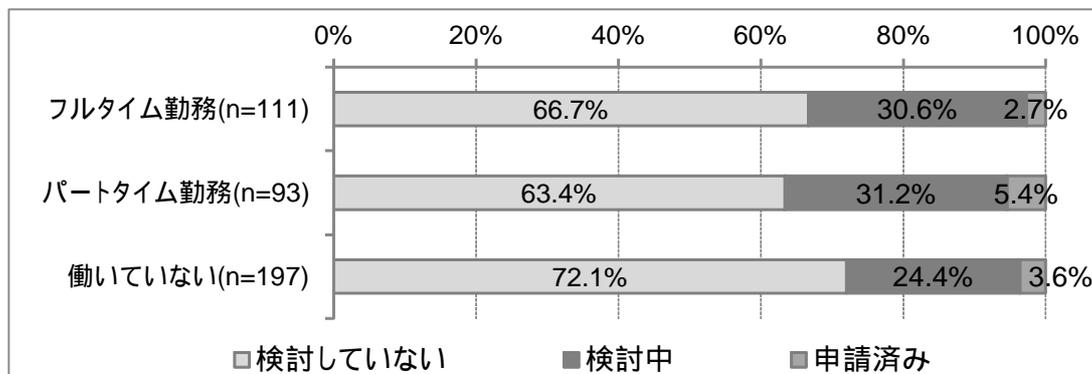
図表 2-13 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み(認知症自立度 以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)



(5) 就労状況別の施設等検討の状況

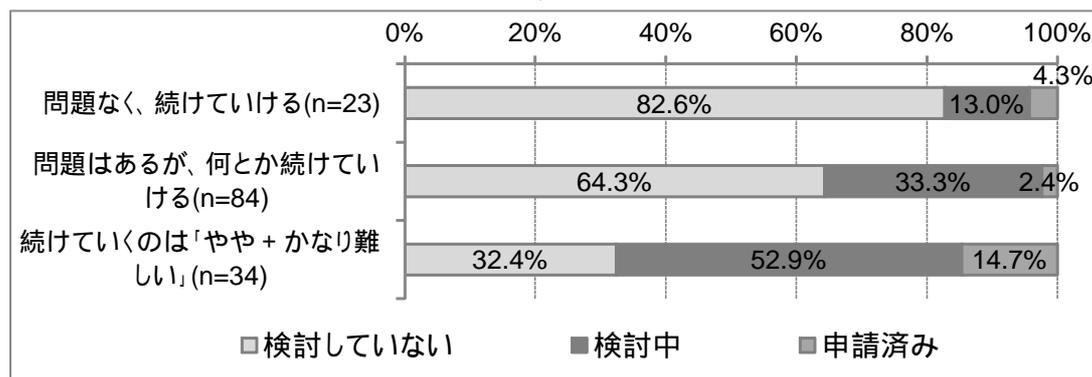
「フルタイム勤務」「パートタイム勤務」「働いていない」とも施設等検討について「検討していない」が最も多く、各々66.7%、63.4%、72.1%であった。

図表 2-14 就労状況別・施設等検討の状況



就労継続見込みについて「問題なく、続けていける」では、施設等検討について「検討していない」が最も多く 82.6%であったが、「続けていくのは『やや+かなり難しい』」では、「検討中」が52.9%と最も多かった。

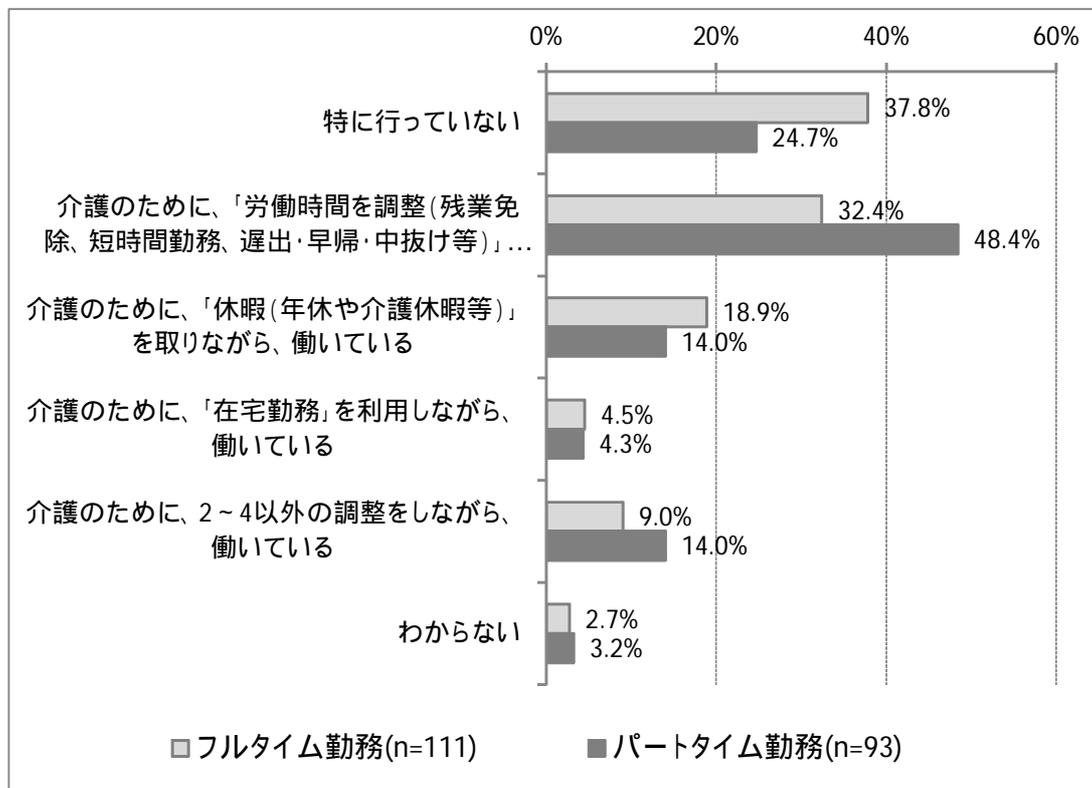
図表 2-15 就労継続見込み別・施設等検討の状況（要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務）



(6) 就労状況別の、介護のための働き方の調整

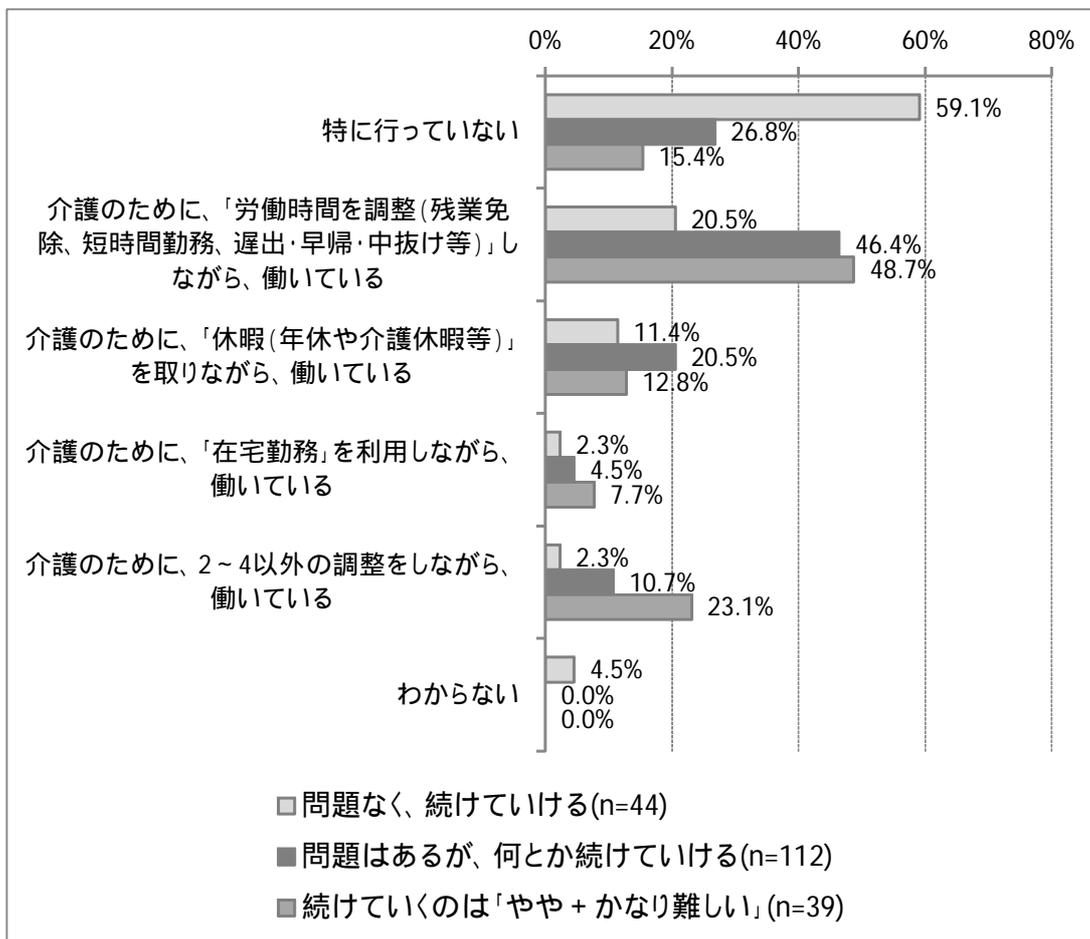
「フルタイム勤務」では介護のための働き方の調整を「特に行っていない」が37.8%と最も多く、「パートタイム勤務」では「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら働いている」が48.4%と最も多かった。

図表 2-16 就労状況別・介護のための働き方の調整



就労継続見込みについて「問題なく、続けていける」では、介護のための働き方の調整を「特に行っていない」が59.1%と最も多く、「続けていくのは「やや+かなり難しい」では、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら働いている」が48.7%と最も多かった。

図表 2-17 就労継続見込み別・介護のための働き方の調整（フルタイム勤務+パートタイム勤務）

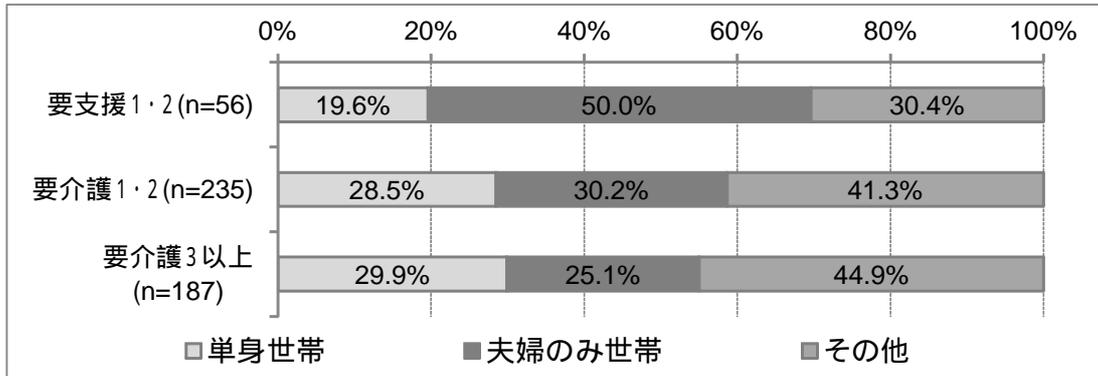


3 世帯類型別のサービス利用や施設等の検討状況

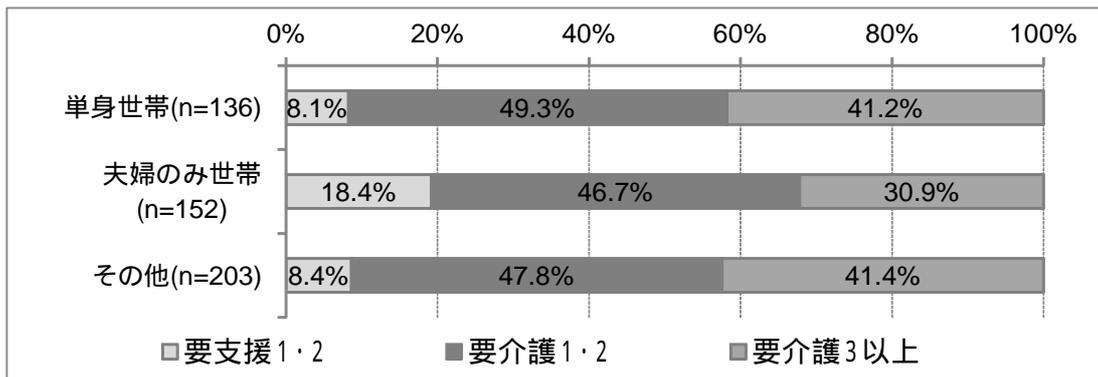
(1) 基礎集計

要介護度が重度化するに従い、「単身世帯」の割合が高くなり（『要支援1・2』は19.6%、『要介護1・2』は28.5%、『要介護3以上』は29.9%）、「夫婦のみ世帯」の割合が低くなっていた（『要支援1・2』は50.0%、『要介護1・2』は30.2%、『要介護3以上』は25.1%）。

図表 3-1 要介護度別・世帯類型



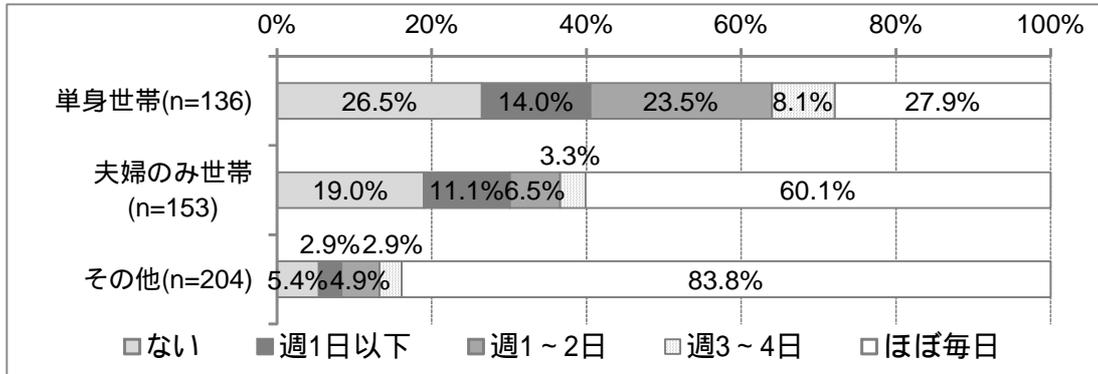
図表 3-2 世帯類型別・要介護度



(2) 「要介護度別・世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」

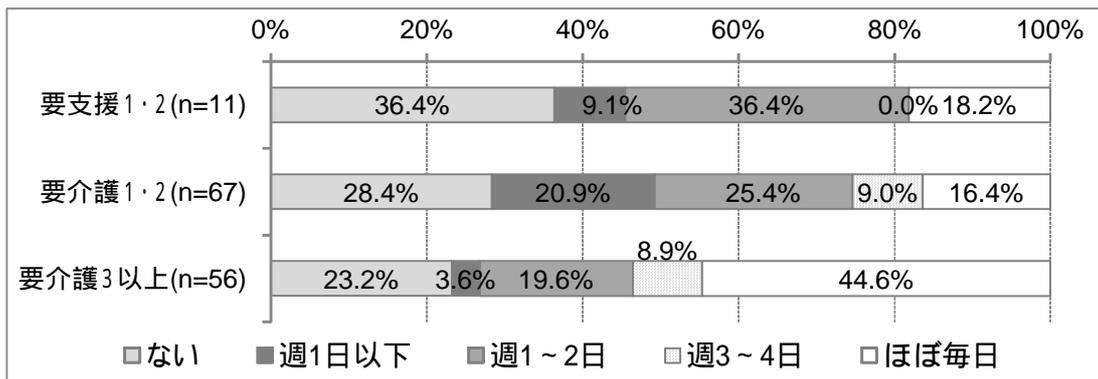
『単身世帯』『夫婦のみ世帯』とも、家族による介護の頻度が「ほぼ毎日」が最も多く各々27.9%、60.1%となっていた。

図表 3-3 世帯類型別・家族等による介護の頻度



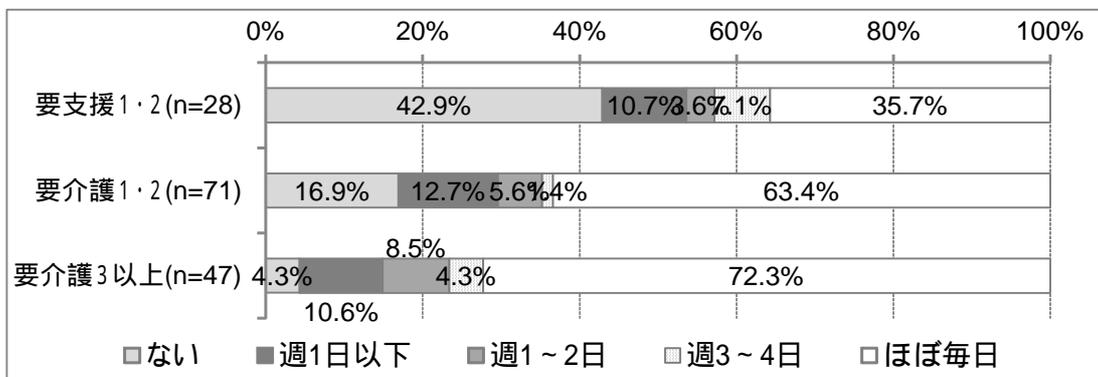
単身世帯では要介護度の重度化に伴い「ない」の割合が低くなり(『要支援1・2』は36.4%、『要介護1・2』は28.4%、『要介護3以上』は23.2%)「ほぼ毎日」の割合が高くなっていった(『要支援1・2』は18.2%、『要介護1・2』は16.4%、『要介護3以上』は44.6%)

図表 3-4 要介護度別・家族等による介護の頻度(単身世帯)



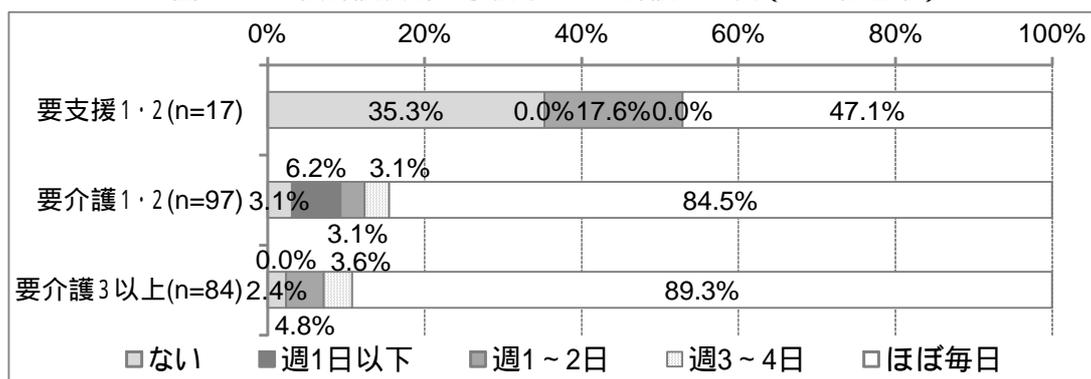
夫婦のみ世帯においても要介護度の重度化に伴い「ない」の割合が低くなり(『要支援1・2』は42.9%、『要介護1・2』は16.9%、『要介護3以上』は4.3%)「ほぼ毎日」の割合が高くなっていった(『要支援1・2』は35.7%、『要介護1・2』は63.4%、『要介護3以上』は72.3%)

図表 3-5 要介護度別・家族等による介護の頻度(夫婦のみ世帯)



その他世帯においては、いずれの介護度においても「ほぼ毎日」が最も多かった。

図表 3-6 要介護度別・家族等による介護の頻度（その他世帯）



(3) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」

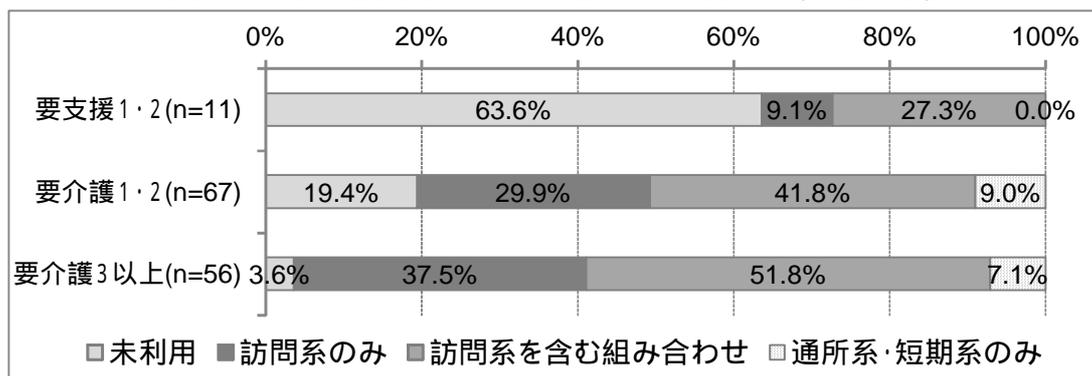
単身世帯、夫婦のみ世帯、その他世帯とも要介護度の重度化に伴い、サービスの「未利用」が少なくなり、サービス利用の割合が高くなっていった。

『要介護度3以上』においては、単身世帯、夫婦のみ世帯、その他世帯のいずれにおいても、「訪問系を含む組み合わせ」の割合が最も高かった。

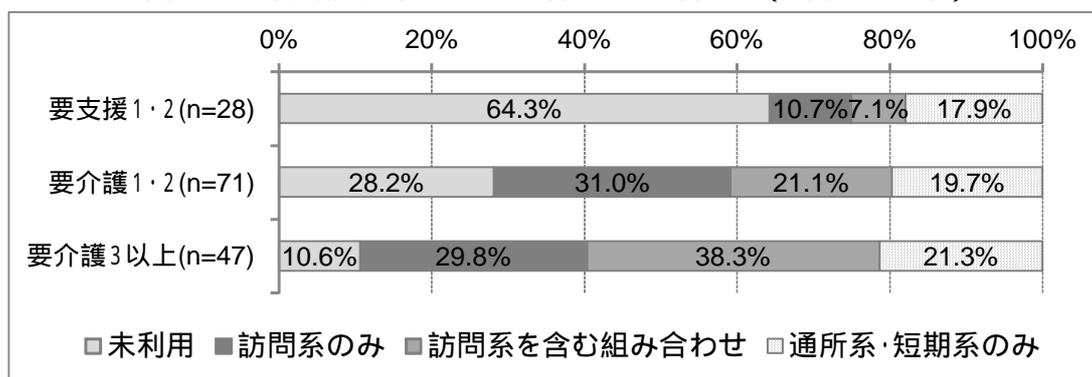
単身世帯、夫婦のみ世帯、その他世帯とも認知症自立度の重度化に伴い、サービスの「未利用」が少なくなり、サービス利用の割合が高くなっていった。

『認知症自立度 以上』において、単身世帯、夫婦のみ世帯では「訪問系を含む組み合わせ」が最も多く各々57.6%、36.0%で、その他世帯では、「通所系・短期系のみ」が46.7%と最も多かった。

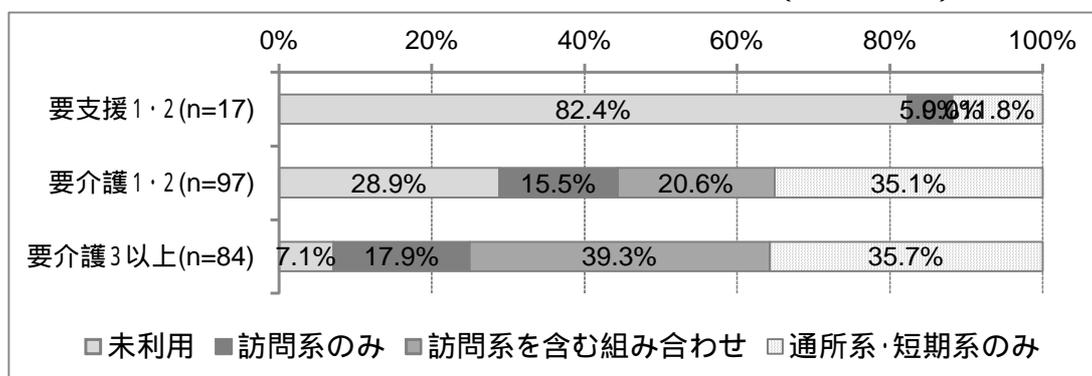
図表 3-7 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



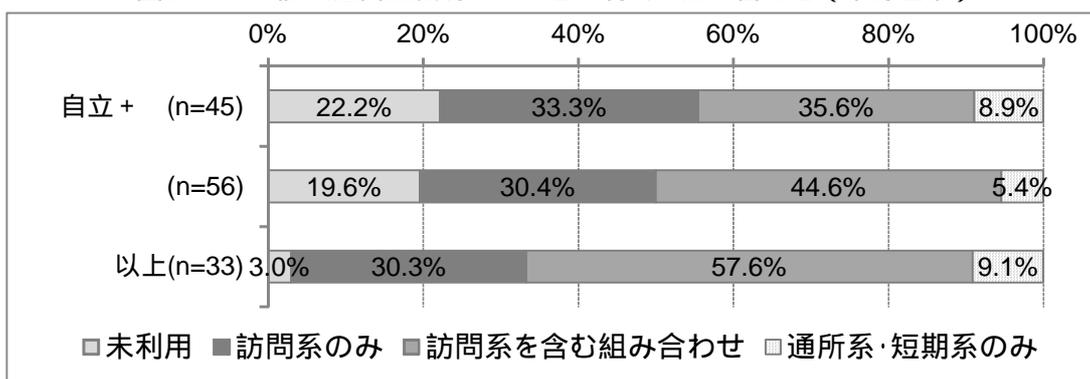
図表 3-8 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



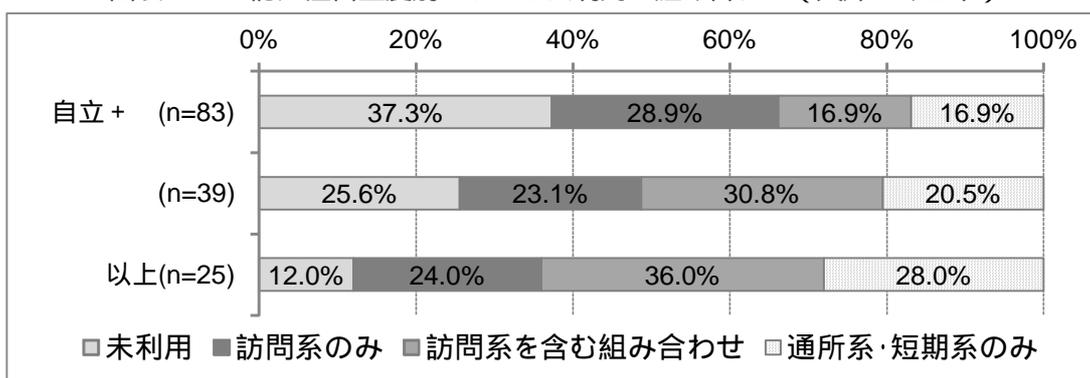
図表 3-9 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）



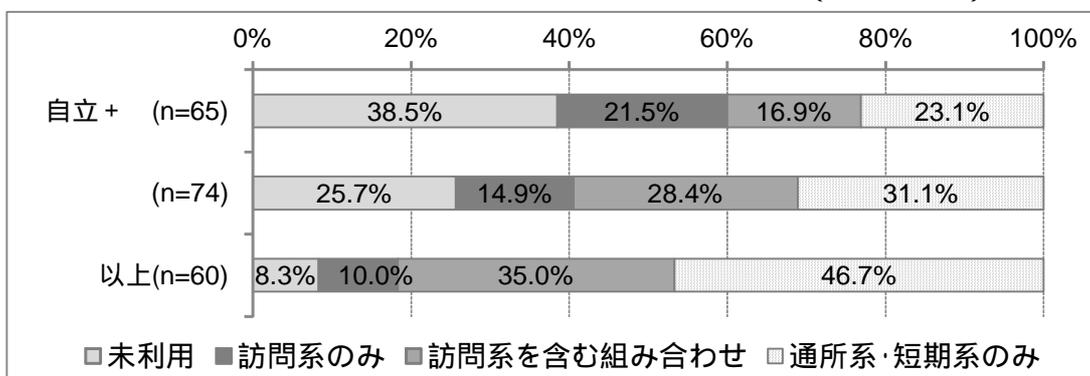
図表 3-10 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



図表 3-11 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



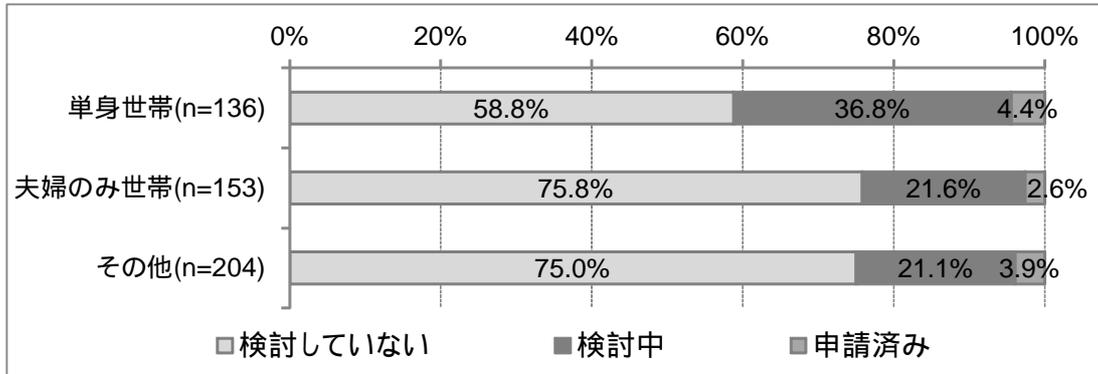
図表 3-12 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）



(4) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」

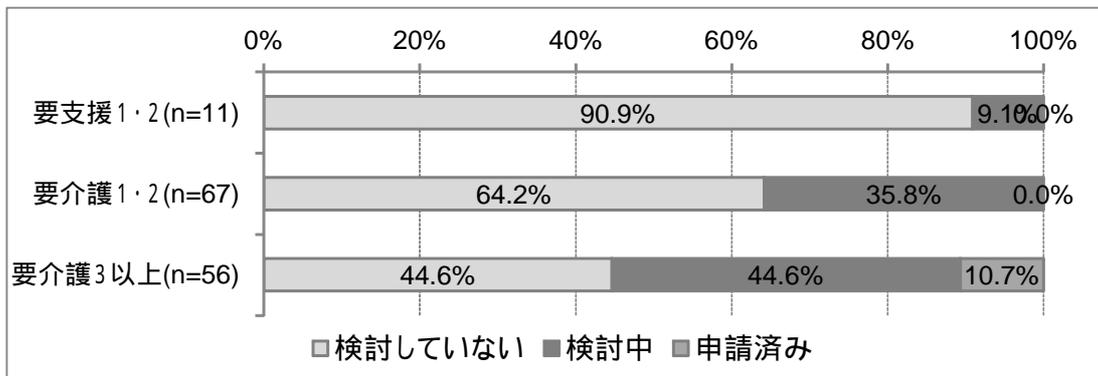
「単身世帯」では41.2%が「施設等を検討中および申請済み」と回答。同様に「夫婦のみ世帯」では24.2%、「その他」では25.0%が「施設等を検討中および申請済み」と回答した。

図表 3-13 世帯類型別・施設等検討の状況（全要介護度）

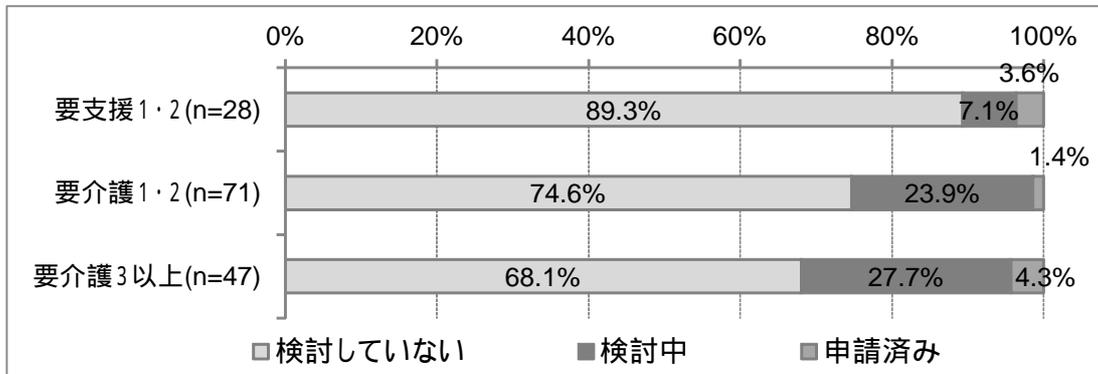


「要介護度別・施設等検討の状況」について「単身世帯」をみると、「施設等を検討中および申請済み」割合は、「要支援1・2」で9.1%、「要介護1・2」で35.8%、「要介護3以上」で55.3%であった。「夫婦のみ世帯」においても同様の傾向であった。「その他世帯」では「要支援1・2」で「施設等を検討していない」割合が100%であった。いずれの世帯においても介護度の重度化に伴い施設等を検討中、申請済みの割合が増える傾向にあった。

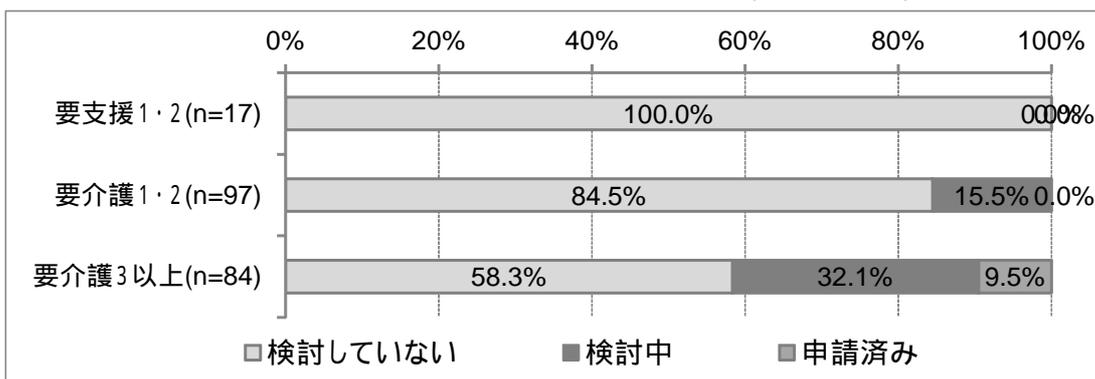
図表 3-14 要介護度別・施設等検討の状況（単身世帯）



図表 3-15 要介護度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）



図表 3-16 要介護度別・施設等検討の状況（その他世帯）

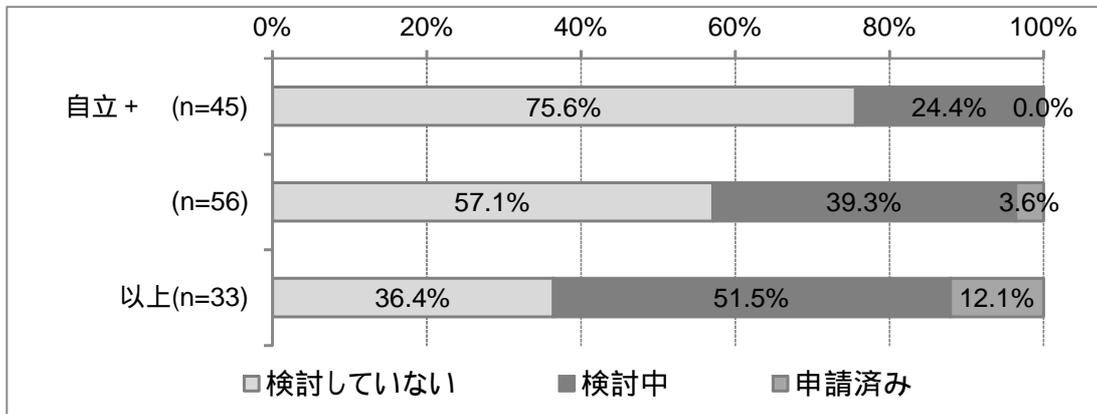


認知症自立度別・施設等検討の状況について、単身世帯では、施設等を「検討中」および「申請済み」の割合は、『自立+』で24.4%、『』で42.9%、『以上』で63.6%と介護度が上がるに従い割合が高くなっていった。

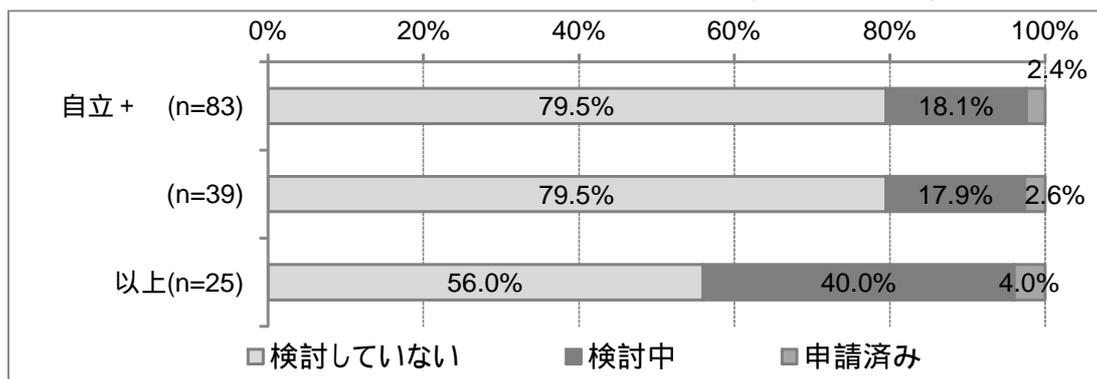
夫婦のみ世帯では施設等を「検討中」および「申請済み」の割合は、『自立+』、『』でいずれも約2割、『以上』で44.0%であった。

「その他の世帯」では「自立+」で施設等を検討していない割合が95.4%と高率であった。いずれの世帯においても「」以上で施設等を検討中、申請済みの割合が増える傾向にあった。

図表 3-17 認知症自立度別・施設等検討の状況（単身世帯）



図表 3-18 認知症自立度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）



図表 3-19 認知症自立度別・施設等検討の状況（その他の世帯）

